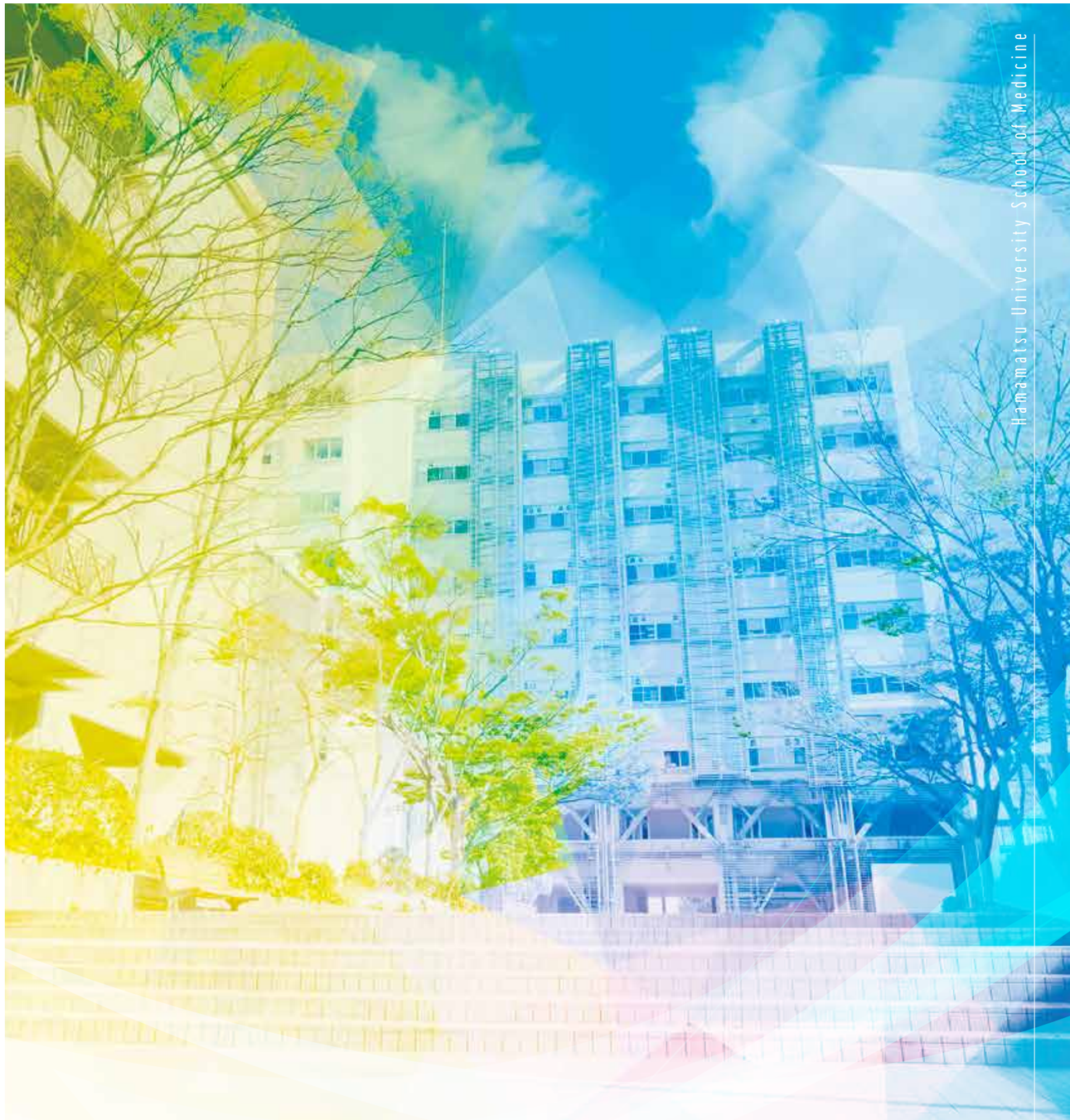
国立大学法人
浜松医科大学

統合報告書2026
INTEGRATED REPORT 2026



統合報告書2026 【 発行 】国立大学法人 浜松医科大学
〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山一丁目20番1号
[TEL]053-435-2111(代) [WEB] https://www.hama-med.ac.jp/

2026年10月発行

Integrated Report 2026

HAMAMATSU UNIVERSITY SCHOOL of MEDICINE

浜松医科大学 統合報告書2026

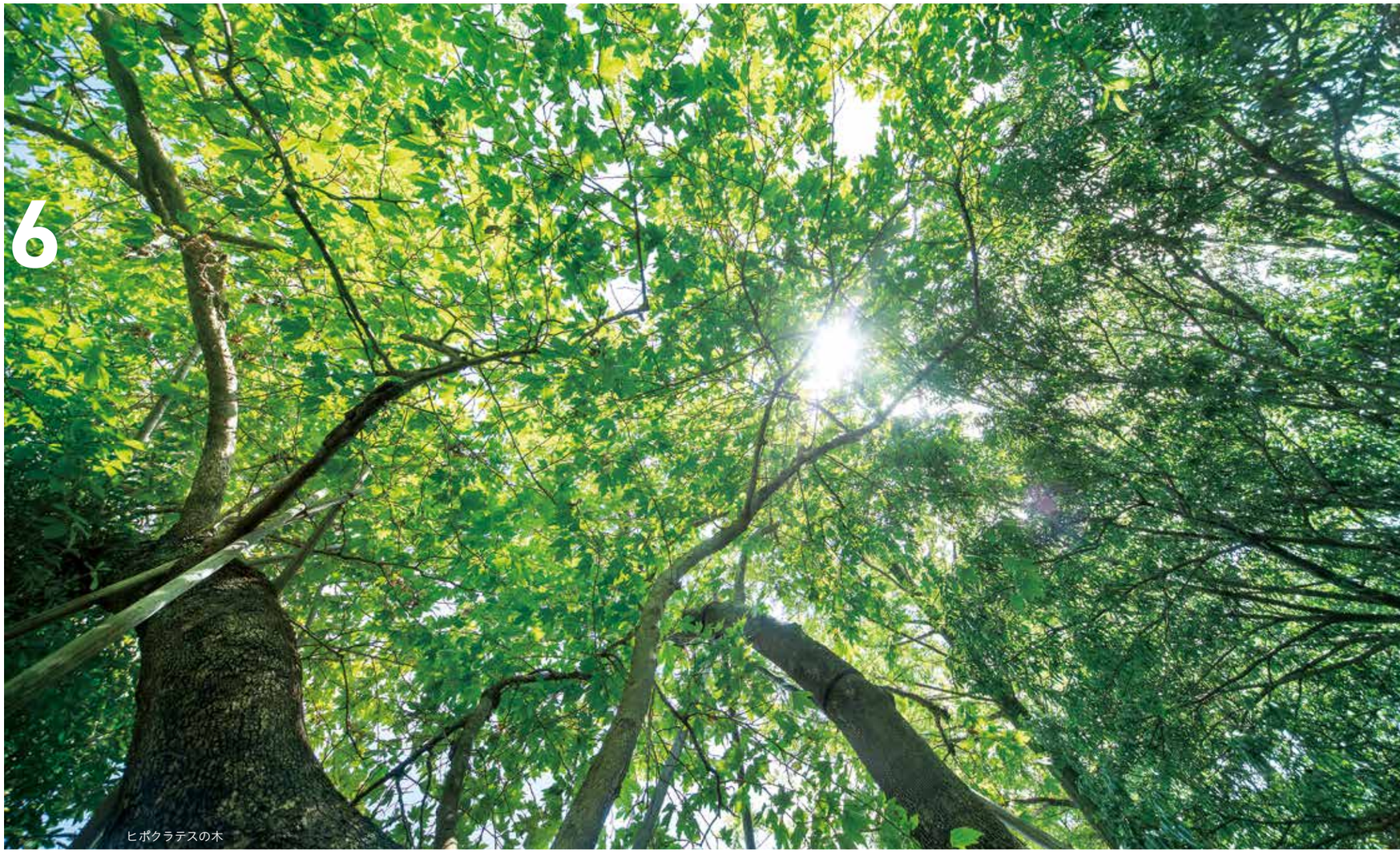
この報告書は、浜松医科大学の将来構想（ビジョン）に関する目標・戦略の進捗状況及びその検証結果と財務情報を組み合わせて、大学を支えていただいている皆様方へ分かりやすくお伝えできるように心がけて作成いたしました。

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、もって人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。



ヒポクラテスの木

CONTENTS

浜松医科大学とは

1 建学の理念、目的及び使命
3 学長メッセージ
9 浜松医科大学将来ビジョン
11 浜松医科大学将来ビジョンの達成に向けて
13 第４期中期目標・中期計画

《Topics》
15 トランスレーショナルリサーチ（TR）の深化
16 医学部看護学科設置30周年

将来ビジョン達成に向けた取組

17 教育
19 研究
21 医療
23 社会連携・地域連携
25 業務運営
27 2025年度から2026年度の主な施設整備

内部統制の整備に関する情報等

29 運営組織図、内部統制
30 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応

財務情報

31 国立大学法人の会計制度
32 財務諸表等の概要
35 医学部附属病院の財務状況

浜松医科大学基金

関係される全ての皆様へ



統合報告書2026
学長メッセージ

浜松医科大学長
渡邉 裕司 Hiroshi Watanabe

2025年4月に浜松医科大学長に就任し、早くも一年余りが経過しました。開学50周年という大きな節目を越え、本学は新たな半世紀への歩みを始めています。これまで本学を支えてくださった教職員、同窓生、学生、地域の皆様、自治体や医療機関、そして企業の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

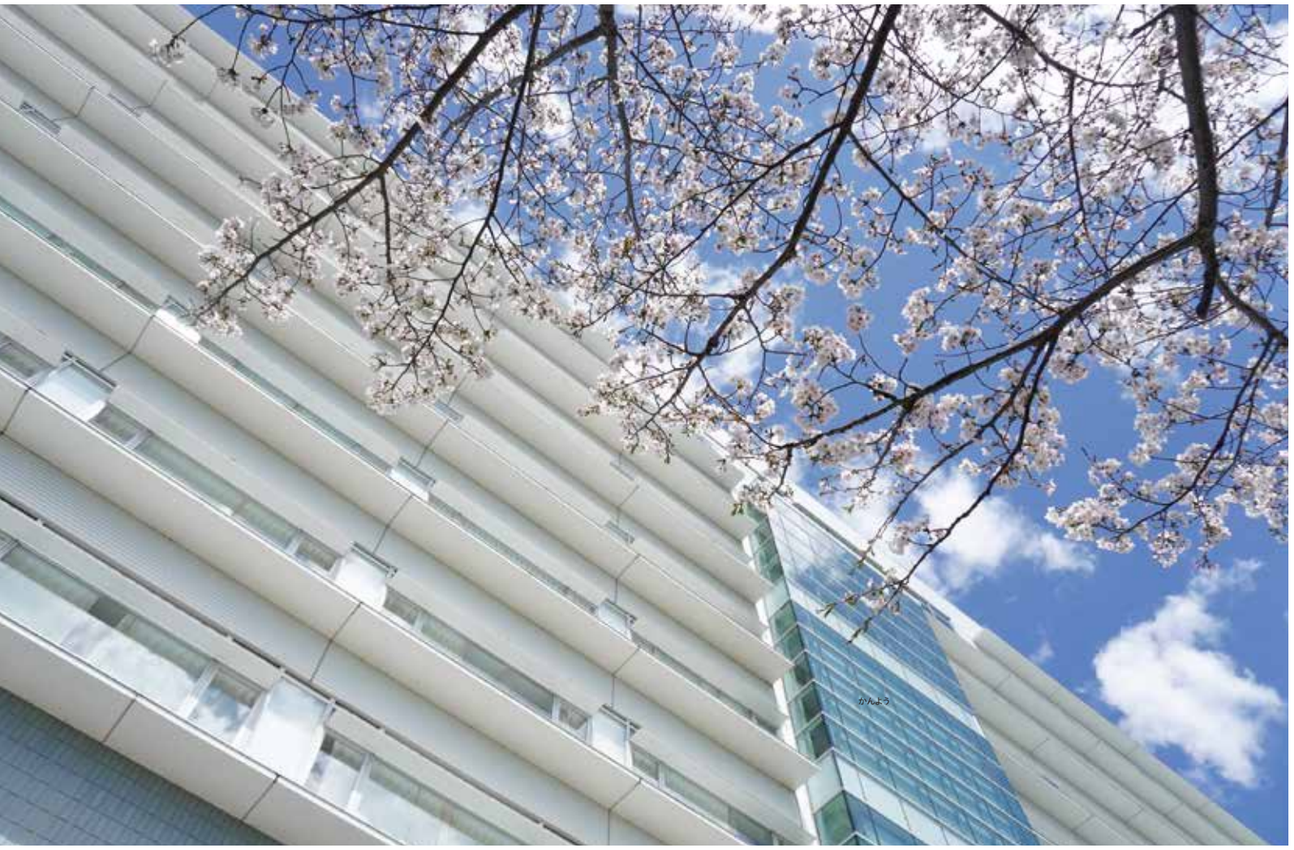
現在、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。少子高齢化の一層の進行、地域医療を支える医師不足や診療科偏在、医療DX（デジタル・トランスフォーメーション）や生成AIをはじめとする技術革新への対応、新興感染症や大規模災害への備えなど、医療・医学教育に求められる役割はますます広がり、複雑化しています。こうした課題に向き合うためには、本学だけでなく、自治体、医療機関、産業界、そして地域住民の皆様と力を合わせ、未来の医療と社会を支える大学づくりを進めていかなければなりません。

私は大学という組織の運営において、「人を尊重すること」を最も重視しています。人を育て、一人ひとりを尊重し、それぞれが互いの力を活かし合う――そのような組織を創っていきたいと考えています。ここで働く人たちが「この大学で仕事ができてよかった」と誇りを持てる場にしていくことが、大学の発展、そして社会への貢献につながると信じています。

本報告書は、本学が目指す未来、すなわち将来ビジョンをお示しするとともに、その実現に向けた現在の取組を関係者の皆様にご報告し、本学への理解をさらに深めていただくために作成したものです。ぜひご一読いただき、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以下、将来ビジョンに掲げる「教育」、「研究」、「医療」、「社会連携・地域連携」及び「業務運営」の各項に沿って、本学の取組をご紹介します。





教育

教育は大学の根幹であり、本学の最も重要な使命です。本学では、「豊かな人間性と高い倫理観」を備え、患者さん一人ひとりの意思を尊重しながら、多職種と協働して医療を実践できる医療人の育成を目指しています。

自ら問いを立て、課題を発見し、その解決に向けて主体的に考え行動する力を養う教育を重視し、少人数教育や課題解決型学習、シミュレーション教育の充実を図るとともに、データサイエンス教育やアントレプレナーシップ教育なども取り入れ、社会の変化に柔軟に対応できる医療人の育成を進めています。

また、国際感覚を備えた医療人の育成にも力を入れています。海外臨床実習や研究留学、国際サービス・ラーニングなど、多様な海外プログラムを通じて、学生たちは異なる文化や医療環境に触れ、国際的な視野を養うとともに、多様な文化や価値観への理解を深めています。

看護学科は2025年度に設置30周年を迎えました。これまで1,800名を超える卒業生を輩出し、地域医療を支える多くの看護職を育成してきました。高い国家試験合格率や卒業生満足度は、本学の看護教育の成果を示すものであり、今後も社会の期待に応えるべく、教育・研究機能の一層の強化に努めてまいります。

大学院では、2025年度に看護学専攻に、臨床を基盤として看護職や学生の教育に携わるプロフェッショナルであるクリニカル・ナース・エデュケーター（CNE）養成課程を開設するとともに、専門看護師養成課程の充実にも取り組んでいます。2025年3月には、老年看護学の専門看護師養成課程修了生から初めて専門看護師認定審査合格者を輩出するなど、高度実践看護人材の育成を着実に進めています。

こうした教育活動を通じて培われた知識や経験は、将来の医療や研究を支える原動力となります。本学は今後も、地域社会と国際社会の双方に貢献できる医療人を育成し、その成果を次世代の研究や医療の発展へとつなげてまいります。

研究

本学の研究の大きな特徴は、「光医学」を核とした独創的な研究力にあります。光医学総合研究所を中心として、医学、工学、情報学を融合した研究を推進し、新たな診断技術や治療法の開発に取り組んでいます。

また、本学ではトランスレーショナルリサーチ（TR）※の更なる深化を進めています。基礎研究の成果を迅速に臨床へと橋渡しするとともに、臨床現場から生まれた課題を研究へと還元することで、浜松発の医療イノベーション創出を目指しています。その一環として、2025年度にはヘルスインフォマティクスセンターを設置し、健康・医療データを活用した新たな研究基盤を整備しました。医療DXや生成AIの進展を研究にも積極的に取り入れ、多様な研究者が共創できる環境づくりを進めています。さらに、シミックホールディングス株式会社との包括連携を通じて、アカデミアと企業が連携した創薬エコシステムの構築を進めています。企業や他大学との連携を拡大しながら、研究成果の実用化と新たな医療イノベーションの創出を目指します。

2026年4月には、研究推進・URAセンターを設置しました。研究戦略の企画立案や外部資金獲得支援を強化するとともに、若手研究者が挑戦的な研究に専念できる環境を整え、本学全体の研究力向上を図っています。

こうした研究基盤と研究環境の充実を進める中、光分子解析施設を中心に最先端研究機器を整備し、国際的な光・量子医学創薬支援拠点の形成を推進しています。また、ホスピタル・ラボを活用しながら、産学官連携による研究成果の社会実装にも力を注いでいます。今後も、基礎研究から臨床応用までをつなぐTRをさらに発展させ、新たな診断法や治療法の開発を通じて、人々の健康と福祉の向上に貢献してまいります。

※基礎研究の成果を臨床に応用するための研究手法











医療

本学附属病院は、患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供するとともに、大学病院として高度な医療を追求し、優れた医療人の育成に努めています。

こうした役割を果たす中で、本院の診療実績も着実に向上しています。2025年度には、病床稼働率が90%に達し、年間手術件数も9,400件を超えるなど、多くの患者さんに高度な医療を提供しています。特に2024年度は、100床あたりの手術全身麻酔件数が国立大学医学部附属病院の中で全国第1位となっており、本院が静岡県をはじめとする地域の高度急性期医療を支える重要な役割を担っていることを示しています。今後も、地域の医療機関との連携を一層深めながら、大学病院として求められる高度で質の高い医療を安定的に提供してまいります。

診療においては、医療DXを附属病院の重要な柱と位置付けています。厚生労働省の電子カルテ情報共有サービス事業への参画をはじめ、生成AIを活用した診療文書作成支援やAI問診などの導入を進め、効率的で質の高い医療提供体制の構築に取り組んでいます。また、スマートホスピタルの実現に向けて各種デジタル技術の活用を推進し、患者サービスの向上と医療従事者の負担軽減を図っています。

2025年度には、地域診療教育システム開発センターを新たに設置し、同センターを中核として総合的な診療能力を有する医師の育成を進めています。2025年8月には総合診療科を開設し、原因が特定しにくい症状や複数の疾患、心理・社会的課題を抱える患者さんに対する包括的な診療を開始しました。また、浜松医療センターとともに立ち上げた地域医療連携推進法人浜松アカデミック・メディカル・アライアンス（HAMA）との連携のもと、病院総合診療医コースの充実を図っています。

さらに、2025年10月には脳卒中・心臓病等総合支援センターを開設しました。県内の医療機関や行政機関、看護・介護関係機関と連携し、脳卒中や心臓病の患者さんやご家族に対して、医師、看護師、社会福祉士など多職種による相談支援を行っています。また、医療関係者や患者さん、ご家族、地域住民を対象とした研修会や勉強会を通じて、疾病の予防や再発防止に向けた普及啓発にも取り組んでいます。

今後も、大学病院として高度な医療を追求するとともに、安全で良質な医療の提供と患者サービスの充実を通じて、地域医療の更なる発展に貢献してまいります。

社会連携・地域連携

本学は、地域とともに発展する大学として、社会連携・地域連携を大切にしてきました。

2024年度には産学官連携実施法人「はままつ共創リエゾン奏」を設立し、浜松地域における新たな産学官連携の拠点形成を進めています。研究成果の社会実装やスタートアップ創出を促進するとともに、産学官の連携を通じた地域課題の解決を目指しています。

また、2019年3月に静岡大学との間で合意した法人統合・大学再編は、少子化の進展など高等教育を取り巻く環境の変化を踏まえ、両大学の強みや特色を活かしながら、地域に必要な人材を育成し、地域課題の解決に取り組むための重要な構想です。今後も、法人統合・大学再編の実現に向けた取組を進めてまいります。

2025年度には、静岡大学情報学部・工学部と本学医学部、静岡大学電子工学研究所と本学光医学総合研究所との間で部局間包括協定を締結しました。さらに、静岡市及び浜松市とも協定を締結し、教育・研究機能の強化や人材育成、地域課題の解決に向けた連携を進めています。医学・工学・情報学の融合による分野横断的な取組を通じて、新たな価値の創出を目指します。

さらに、2025年度より医学科1年次生を対象に防災士養成講座を開講し、災害医療教育とあわせて、防災・減災を担う人材の育成を進めています。南海トラフ地震をはじめとする大規模災害への備えが求められる中、自治体や関係機関とも連携しながら、地域全体の防災力向上に取り組んでいます。

今後も、大学が有する医学的知見を地域へ還元するとともに、地域との連携を一層深め、地域と大学がともに発展できる関係を築いてまいります。

業務運営

大学を取り巻く経営環境は、全国的に厳しさを増しています。物価高騰や人件費上昇が続く中、本学が教育、研究及び医療の質を維持し、さらに発展していくためには、持続可能な経営基盤の構築が不可欠です。

本学では、外部資金の獲得や産学官連携の推進に加え、資金運用の高度化にも取り組み、財務基盤の強化を進めています。また、キャンパス情報システムの更新やクラウド活用、情報セキュリティの強化などを通じて、教育・研究を支えるICT基盤の整備を推進しています。

加えて、2026年度に設置したダイバーシティ推進室を中心として、多様な価値観や背景を持つ教職員が、それぞれの能力を十分に発揮できる環境づくりを進めています。一人ひとりが尊重され、その力を最大限に発揮できる組織をつくることは、本学の持続的な発展に不可欠であると考えています。

新たな半世紀への歩みを始めた本学は、教育、研究、医療及び社会貢献の更なる発展に挑戦してまいります。優れた医療人の育成、独創的な研究の推進、安全で質の高い医療の提供を通じて、人々の健康と福祉の向上に貢献することは、これからも変わることのない本学の使命です。

本学は、これまで地域に支えられながら発展してきました。今後も地域社会との連携を一層深めるとともに、世界に向けて新たな価値を発信し、地域と世界の双方に貢献し続ける大学でありたいと考えています。

教職員一人ひとりの力を結集し、未来の医療と社会を支える大学づくりに邁進してまいりますので、今後とも本学に対する温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



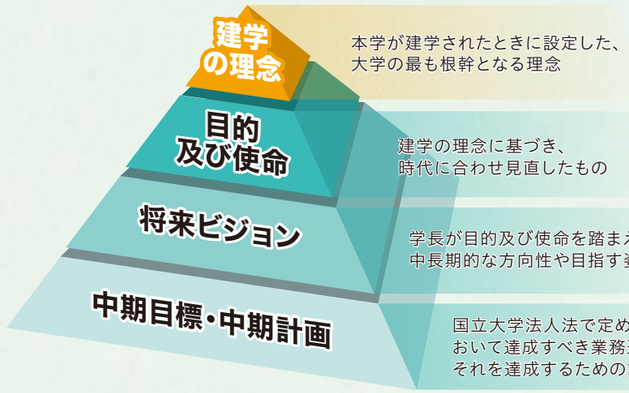


浜松医科大学
将来ビジョン

本学は、建学の理念並びに目的及び使命を掲げ、その実現に向け建学以来、努力を続けてまいりました。今後も教育、研究、医療及び社会連携・地域連携活動の一層の充実により、地域社会や国内外の諸課題の解決に取り組むため、教学及び業務運営を包含した将来ビジョンを策定いたしました。この将来ビジョンは、学外関係者の皆様には、本学の長期的な方向性や目指すべき姿を示すものであり、学内の教職員には、中期目標・中期計画をはじめとした具体的な施策の拠り所になるものであり、多様なステークホルダーが共通認識を持つことによりその実現に向け大きな推進力となるものです。

今後も、関係者の皆様に、将来ビジョンの達成に向けてロードマップ等を示し、具体的な取組の進捗状況などをご報告いたします。

国立大学法人
浜松医科大学



web 中期目標・中期計画は、ホームページで公表しています。
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/index.html

教育

時代が激変する中で、医師、看護師に求められる知識、技術は増すばかりですが、本学は引き続き高度な能力を備えた専門性の高い医師、看護師を育成します。さらに、患者さんの価値観や特性など多様性を理解し、他職種と連携しながら患者さんの意思を尊重した最善の医療を提供できる医療人の育成に努めます。加えて、研究熱心で未知の生命現象の解明や疾患の克服等につながる重要な研究成果を世界に発信できる独創的な医学・看護学研究者を養成するとともに、既存の学術領域を超え、新しい医療技術を社会実装するなど、社会課題に挑戦するアントレプレナーシップ（起業家精神）を持った人材の育成を目標として掲げています。

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養（かんよう）

研究

本学の強みである光の医学応用に関する最新の研究機器と高度な技術スタッフや蓄積したノウハウからなる研究を推進できる体制（イメージングコンプレックス体制）を活用し、光医学研究を更に推進するとともに、こころの病や遺伝性疾患など、未解明の課題に対して基礎研究者、臨床研究者が一体となって取り組み、治療法の開発につなげます。また、工学・情報学等の他分野の知見を取り入れながら特色ある分野横断的研究を推進し、同時に新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析により、心身ともに健康な社会の創成を目指します。

- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
- こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
- 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
- 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウエルネスの創成

医療

メディカルＤＸ（医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること）により、より安全で高度な医療を提供し、医療の質や患者さんの利便性を向上させるとともに、看護師をはじめ、多様なメディカルスタッフの質的向上によるタスクシフト（従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること）に取り組み、医療従事者にとってもフレンドリーな環境を提供するスマートホスピタルの実現を目指します。また、専門医や特定看護師など地域医療の中核を担う高度で専門的な能力を有した医療人の育成を強化します。さらに、医療情報の共有化などをはじめ近隣医療機関等との連携により集約化・機能分化を推進しレジリエント（困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ）な医療ネットワークの構築に取り組みます。

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 集約化・機能分化によるレジリエントな医療ネットワークの構築

社会連携 地域連携

これまで培ってきた、民間企業、地方公共団体、教育研究機関、金融機関等との連携を強化し、革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成等により医療を基盤とした産業創出を目指します。さらに、地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携し、インクルーシブ（社会的に包容力のある）で持続可能な「ウエルネス（より良く生きるための生活を目指す）社会」の創出に貢献します。

- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
- 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウエルネス社会」の共創

業務運営

この統合報告書等を通じて関係者の皆様との対話により本学に期待される機能や役割を理解し、外部有識者の助言をいただきながら、調査研究を充実させ、客観的な指標に基づく大学運営を行います。また、国からの運営費交付金とともに多様な財源の確保を図り、資産運用等の拡大により安定的な財務運営に努めます。さらに、施設・設備整備を通じて、地域医療を支える附属病院の機能強化や、高度な情報技術を基盤とし、キャンパス全体が有機的に連携し、学内のみならず、地方公共団体、産業界、他の教育研究機関等との共創の拠点（イノベーション・コモンズ）となるよう取り組みます。

- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的大学経営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・コモンズの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

浜松医科大学
将来ビジョンの達成に向けて

浜松医科大学のリソース

職員数

2,780名 ※1

職員数の内訳
- 常勤職員
  - ・教員……409名
  - ・看護師等医療職員 …… 1,094名
  - ・事務、技術職員等 ……211名
- 非常勤職員…… 1,066名

※1）2025年5月1日現在

固定資産

396億円 ※2

固定資産の内訳
- 土地……64億円
- 建物・構築物 …… 221億円
- 設備……71億円
- 図書…… 3億円
- その他 ……37億円

※2）2025年3月31日現在

投資額

434億円 ※3

投資額の内訳
- 教育研究経費……10億円
- 診療経費 …… 209億円
- 外部資金……43億円
- 人件費 …… 146億円
- 施設整備費 …… 7億円
- 一般管理費…… 5億円
- その他 ……14億円

※3）2025年度決算より

※各金額は単位未満を四捨五入しているため、計が一致しない場合があります。

リソースの活用による目標達成への流れ

本学は、将来ビジョンを掲げ、その達成に向けて様々な活動を実施しています。

このページでは、2025年度（一部2026年度）に本学が実施した主な活動を中心に5つのビジョン毎に区分し、本学が保有するリソース（人的資本や資金など）が、各ビジョンの目標達成に向けて、どのようなアウトプット（成果）及びアウトカム（成果によってもたらされる効果）を生み出しているか、その流れを表しています。

主な活動		主なアウトプット	主なアウトカム	5つのビジョン
医学科・看護学科新カリキュラムの実施		● DXを取り入れた教育の実施 ● 修了生の専門看護師認定審査合格 ● 海外留学者数　45名 ● アントレプレナーシップ教育の講義拡充 ● 防災士養成講座108名受講	★患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成 ★社会課題に挑戦できる人材の育成 ★高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成	教育
高度看護実践コースの実施	P18			
国際交流の充実	P18			
防災士養成への取組	P17			
研究戦略室と5つのWGの活動		● 査読付き原著論文数 586本 ● 科学研究費助成事業受入額 約5.2億円（前年度比 約9.4%増） ● 民間等からの外部資金等の受入額 約4.6億円	★先端的な医学研究の推進 ★新しい治療法や医療技術につながる研究の推進 ★研究成果の社会への実装・還元	研究
研究支援制度の拡充	P20			
光医学総合研究所の運営				
新たな研究組織の設置	P20			
先端機器の導入と共用化の推進	P20			
安全で高度な医療の推進		● 手術件数 9,420件（前年度比 約4%増） ● 病床稼働率90.0% （前年度比 約1.8%増） ● 看護師特定行為研修修了者数 8名（うち院外3名）	★高度で低侵襲な医療の推進 ★地域医療を担う高度な能力を有した医療人の養成 ★タスクシフトなどの効率的な働き方による医療の質の向上	医療
メディカルDXの推進				
臨床教育の充実	P22			
新たな医療ネットワークの構築	P21			
産学官金連携の推進	P24	● 実用化件数 2件 ● 医療現場との情報交換会 68社出席 ● 地域連携事業（社会貢献事業） 16事業へ支援	★産学官金連携による研究成果の社会還元 ★医療現場のニーズからの製品化への期待 ★本学の持つ知見や研究成果による社会貢献	社会連携 地域連携
地域創成防災支援人材教育センターの運営	P23			
次世代創造医工情報教育センターの運営	P24			
ステークホルダーとの対話の実施		● 「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」による新棟の建設（ホスピタル・ラボ） ● 定期預金、債券による資産運用収益 約5，271万円（前年度比　約41%増）	★ステークホルダーとの対話による本学に期待される機能や役割の理解 ★安定的な財務運営による教育研究機能の強化	業務運営
統合報告書の発行				
財源の多元化と資産運用等の拡大	P26			
施設整備・ デジタルキャンパスの推進	P27-28			

インプット

第4期中期目標・中期計画

本学中期計画［概要］

国立大学法人法により、文部科学大臣から、国立大学法人等が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）が示され、この目標を達成するため6年間（2022～2027年度）の中期計画を定め、文部科学省から認可を受けています。2025年度は、この６年間の４年目に当たりますが、中期計画の達成に向け、順調に進んでおります。今後も関係者の皆様の期待に応えるべく、取り組んでまいります。

Ⅰ 教育研究の質の向上に関する事項

1 社会との共創

・デザイン思考（問題解決においてデザインの手法や過程を活用する考え方）やアントレプレナーシップ（起業家精神）の素養を持った人材の養成
・新たな医療産業創出によりインクルーシブ（社会的に包容力のある）で持続可能なウエルネス（より良く生きるための生活を目指す）社会の創生に貢献
・新興感染症や自然災害などに対してレジリエント（困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ）な地域医療体制の構築

2 教育

・学修成果基盤型教育の質の向上を目的として改訂した新しい教育課程の実施
・他大学や企業等との連携による数理データサイエンスやAI教育等の充実
・アクティブラーニング（能動的学習）形式授業の発展
・光医工学共同専攻の発展及び看護学専攻（博士後期課程）の新設
・高度実践看護コースの充実
・国際的視野に立って活動できる人材の育成
・海外からの優秀な留学生の獲得

3 研究

・基盤経費の積極的措置や研究機器の共用化などによる研究基盤の強化
・光医学研究の卓越性を更に伸長させた新たな研究拠点の創設やイメージングコンプレックス体制（細胞から動物個体までのあらゆる階層の対象を用いて、光技術や分子イメージングの研究を推進できる体制）の高度化
・光医学やナノスーツ技術を応用した分野横断的アプローチによる課題解決並びに新規診断治療法及び治療薬開発等の実用化の推進

4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

・地域の産学官連携拠点としての中核機能の更なる強化
・附属病院における情報技術の活用などによる安全管理体制の強化
・高度医療・低侵襲医療の推進
・初期研修・専門医研修プログラムの充実
・メディカルDX（医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること）の推進や近隣の医療機関等との緊密な連携による効率的な地域医療体制の構築

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項

・外部有識者の知見を生かした大学経営とガバナンス体制の強化
・キャンパス環境の向上を図る施設整備

Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

・民間企業等からの資金の受入れ促進をはじめとする財源の多元化と安定的な財務運営並びに戦略的な学内予算配分の推進

Ⅳ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

・客観的データに基づいた自己点検評価
・統合的な年次報告書等による情報発信や多様なステークホルダーとの対話の実施

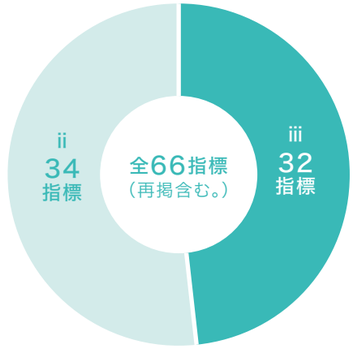
Ⅴ その他業務運営に関する重要事項

・業務の見直しとデジタル技術の活用によるデジタル・キャンパスの推進

2022～2025年度実績に関する自己点検・評価結果について

2025年度は第４期中期目標期間（2022～2027年度）の４年目に当たり、国立大学法人法に基づき、2026年度に４年目終了時評価を受けることになっております。

本学が中期計画の各評価指標（66指標（再掲含む。））の進捗状況について自己点検・評価を行った結果は次のとおりです。



iii：達成水準を大きく上回ることが見込まれる
ii：達成水準を満たすことが見込まれる
i：達成水準を満たさないことが見込まれる

web

国立大学法人評価に関する自己点検・評価結果は、ホームページで公表しています

https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html

iii（達成水準を大きく上回ることが見込まれる指標）の例

教育
・アントレプレナーシップ※の素養を涵養（かんよう）する講義の実施
・数理データサイエンスやAI教育等の講義の新設
・看護専門科目にアクティブラーニングの手法の100％導入
・海外留学学生の増（P.18）
・海外学術交流協定校の増

研究
・新規イメージング関連機器導入（P.20）
・産学官連携実施法人設立
・医工連携又は地域企業との共同研究件数の増

医療
・附属病院収益の増（P.35）
・研修医の研修環境改善
・メディカルスタッフのキャリアアップ支援費の増
・地域連携WEBセミナーの開催
・総合診療専門研修プログラム修了生の輩出

業務
・施設機能強化の達成度の確保
・資金運用益の増（P.26）

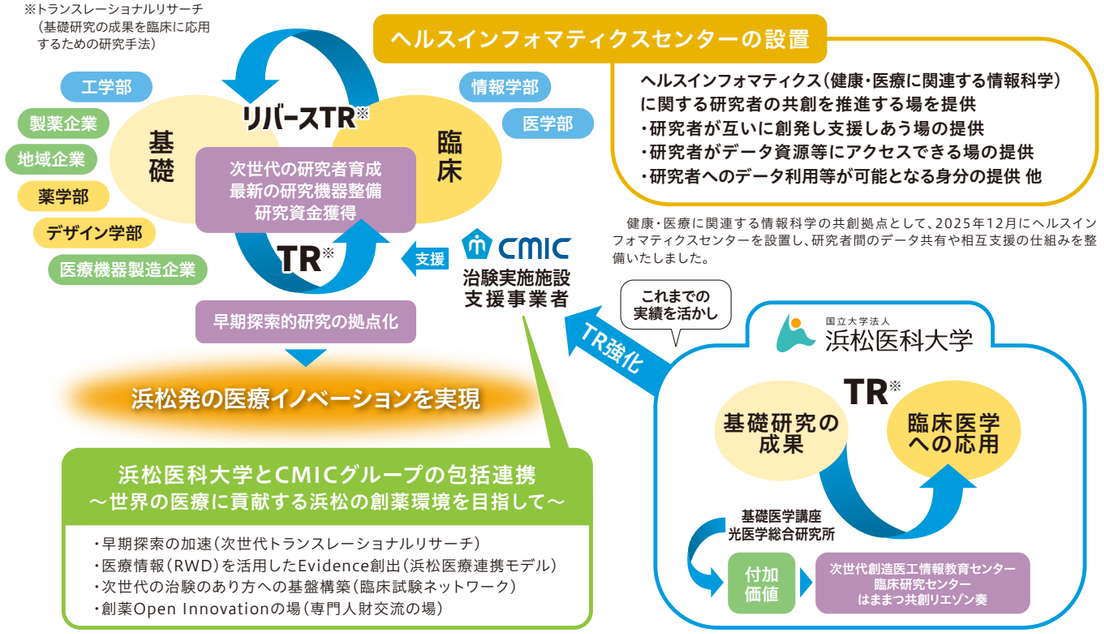
自己点検
・医学教育分野別評価（２巡目）の結果（適合状況）が１巡目を上回る
・医学科卒業時アンケート項目における達成度・満足度の向上
・カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会の開催回数と外部委員の人数の増
・統合報告書のアンケート調査項目における理解度の向上

※アントレプレナーシップ…起業家精神　※括弧内のページ数は関連ページを表しています。

01 トランスレーショナルリサーチ（TR）の深化

これまでも本学は、早期探索的臨床試験にいち早く着手するなど、トランスレーショナルリサーチ（TR）*を実践してまいりました。これら豊富な経験を活かして、さらにTRの深化を進めています。基礎から臨床（TR）と臨床から基礎（リバースTR）の好循環の中から、次世代の研究者の育成、最新の研究機器整備並びに研究資金を獲得し、早期探索的研究の拠点化を推進するとともに、世界の医療に貢献する浜松発の医療イノベーションの実現を目指しております。

※トランスレーショナルリサーチ
（基礎研究の成果を臨床に応用するための研究手法）



ヘルスインフォマティクス（健康・医療に関連する情報科学）に関する研究者の共創を推進する場を提供
- 研究者が互いに創発し支援しあう場の提供
- 研究者がデータ資源等にアクセスできる場の提供
- 研究者へのデータ利用等が可能となる身分の提供 他

健康・医療に関連する情報科学の共創拠点として、2025年12月にヘルスインフォマティクスセンターを設置し、研究者間のデータ共有や相互支援の仕組みを整備いたしました。

浜松医科大学とCMICグループの包括連携
～世界の医療に貢献する浜松の創薬環境を目指して～

- 早期探索の加速（次世代トランスレーショナルリサーチ）
- 医療情報（RWD）を活用したEvidence創出（浜松医療連携モデル）
- 次世代の治験のあり方への基盤構築（臨床試験ネットワーク）
- 創薬Open Innovationの場（専門人財交流の場）

探索的研究の拠点化に向けて、2025年11月に国際的な競争力を持つ新たな創薬エコシステムの構築を目的としてシミックホールディングス株式会社との包括連携協定を締結いたしました。本提携により、両者の知見と強みを融合させた"日本発・浜松発"の革新的な創薬拠点の構築を進めております。

■ヘルスインフォマティクスセンターの設置

2026年1月22日に本学においてヘルスインフォマティクスセンターオープン式典を開催しました。ヘルスインフォマティクス分野の今後の発展と共創の可能性について理解を深める機会となりました。

オープン式典では、尾島俊之センター長より、センターの主な役割や今後の取組についての紹介が行われました。


渡邉裕司学長、中村和男代表取締役CEO（協定締結時）


尾島俊之センター長によるセンター紹介

■サイエンスカフェの開催

ヘルスインフォマティクスセンターでは、設立目的の達成に向けた取組の一環としてサイエンスカフェを開催しています。

第1回は京都大学の中山健夫教授を招き、「ヘルスインフォマティクスの歩みと展望」をテーマに基調講演を実施し、講演後には活発な意見交換が行われました。

今後も健康・医療情報を活用した研究と社会実装の推進に取り組んでまいります。


第1回 京都大学 中山健夫教授による講演


第2回 明神大也准教授による講演


第3回 藤本晃司特任教授による講演

〈開催実績〉

	テーマ・講演者	参加者数
第1回	ヘルスインフォマティクスの歩みと展望 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野　中山 健夫 教授	60名
第2回	NDB（匿名医療保険等関連情報データベース）について 浜松医科大学 健康社会学講座 明神 大也 准教授	36名
第3回	当院における生成AI 利活用の現状と課題、将来展望 浜松医科大学 先端医療情報学講座 藤本 晃司 特任教授	49名

02 医学部看護学科設置30周年

2025年度で看護学科設置30周年を迎えました！

生命の尊厳を尊重する倫理観、豊かな人間性、科学的探究心及び最新の知識に裏付けられた看護実践能力を持った社会に貢献できる看護専門職の育成を目指し、1995年度の設置以来、1,880名の卒業生を輩出してまいりました。

今後も、期待に応えるべく教育研究機能の強化に努めてまいります。

- ☑高い国家試験合格率：看護師国家試験合格率９年連続100%
- ☑高い標準修業年限内卒業率：96.3%*1
  （国立大学看護学科等*2　18校中２位）
- ☑高い卒業生の満足度：95.7%*3

*1 2020年度～2024年度の過去５年間の平均
*2 保健学科等は、看護学専攻のみの統計が取得できないため除いている。
*3 2022年度～2025年度の過去４年間の卒業生アンケートにおける「満足している」又は「まあ満足している」の合計の回答率



■看護学科設置30周年記念式典の開催

本学医学部看護学科は、設置30周年を迎えたことを記念し、2026年３月14日、ホテルクラウンパレス浜松において記念式典を開催しました。学内外の関係者や卒業生など多くの方々にご参加いただき、看護学科の歩みを振り返るとともに、今後の発展を願う有意義な機会となりました。

式典では、渡邉裕司学長の挨拶に続き、川崎市立看護大学 荒木田美香子副学長、本学基礎看護学講座 三浦友理子准教授による記念講演が行われ、看護教育の歩みやこれからの看護職に期待される役割、看護学科学生・卒業生の強みなどについてご講演いただきました。また、山下寛奈同窓会長より同窓会の活動について紹介があり、卒業生同士のつながりや母校への思いが共有されました。

引き続き開催された懇親会では、卒業生や教職員及び関係者が世代を超えて交流し、恩師との再会や学生時代の思い出話に花を咲かせる、和やかな時間となりました。会の終盤には、これまでの歩みを振り返るスライドショーが上映され、会場は懐かしさと感謝の思いに包まれました。

本式典を通して、看護学科がこれまで多くの方々に支えられて歩んできた30年の歴史を改めて実感するとともに、次の世代へとつながる新たな一歩となりました。







◀懇親会での卒業アルバムとユニフォームの展示
ユニフォームは看護学科１期生がデザインから作ったものです。

教育

次世代で輝く医療人の養成



理事（教育・評価担当）・副学長
梅村 和夫

本学では、社会や医療を取り巻く環境の変化を見据え、次世代の医療を担う人材の育成に向けた教育改革を進めています。医学科・看護学科ともに、専門的な知識や技能の修得にとどまらず、多様性への理解、国際的な視野、他者と協働する力を備え、変化する社会の中で自ら課題を見いだし、解決できる医療人の育成を目指しています。

2025年度には、新たに「防災士養成講座」を開講し、医学科1年次生を中心に108名が受講しました。防災・減災に関する知識に加え、災害医療や避難所運営などを実践的に学ぶ機会を設け、地域社会の課題に対応できる医療人の育成を進めています。

国際教育についても、海外臨床実習に加え、国際サービス・ラーニング、基礎研究留学、国際看護演習など学修機会の多様化を進め、2025年度には延べ45名の医学部生が海外で学びました。異なる文化や価値観に触れる経験を通じて、専門性とともに国際的な視野を備えた医療人・研究者の育成を推進しています。

看護学教育では、大学院博士前期課程の高度実践看護コースにクリニカル・ナース・エデュケーター（CNE）養成課程を開設するとともに、老年看護学及び精神看護学の専門看護師養成も着実に進展しています。高度化・多様化する医療に対応し、臨床及び教育の現場を牽引できる看護人材の育成をさらに充実させていきます。

今後も、国家試験合格率などの成果だけでなく、学生一人ひとりが自ら考え、多様な人々と協働し、新たな課題に挑戦できる力を育む教育を重視していきます。教育の成果を継続的に検証しながら、地域から世界まで幅広く活躍し、次世代の医療を創り出す人材の育成に取り組んでまいります。

将来ビジョン

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、実践的能力を持つ専門人材の養成
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養（かんよう）

主なロードマップ	～2024年度	2025年度	2026年度	2027年度～
医学科新カリキュラム		実施		検証・評価
看護学科新カリキュラム	実施		検証・評価	改訂カリキュラム実施
高度実践看護コースの新設	老年看護学中間評価		老年看護学実施	
	精神看護学開設		精神看護学中間評価	精神看護学実施
	看護教育学開設準備		看護教育学開設	
防災士養成講座	開設準備	実施（医学科必修）		実施（医看必修）

防災士養成講座の開講

2025年度より「防災士*1養成講座」を開講し、医学科１年次生を中心とした108名が受講しました。

災害時に即応できる医療人材の育成推進を目的として、防災・減災に関する基礎知識に加え、DMAT*2経験を有する医師等による災害医療の講義や避難所立ち上げ実技実習などを実施しました。受講後アンケートでは約８割の学生が防災分野への関心の深まりを実感しており、地域防災力向上への意識醸成につながりました。



※1 社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を習得した人材としてNPO法人日本防災士機構が認証する民間資格
※2 災害発生直後の急性期（概ね48時間以内）から活動が開始できる機動性を持った、専門的な研修・訓練を受けた「災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）」





国際感覚を備えた医療人・若手研究者の育成

国際感覚を備えた医療人の育成の一環として、臨床実習・基礎研究留学・語学研修・看護学演習など多くの海外研修・留学プログラムを提供しています。

2025年度は延べ45名の医学部生が留学し、海外の医療・研究環境での学修を通じて、専門性の向上と国際的な視野の涵養を図りました。

〈2025年度海外留学者の内訳〉
- 海外臨床実習 …… 26名
- 国際サービス・ラーニング …… 7名
- 基礎配属留学 …… 4名
- 国際看護演習 …… 2名
- その他 …… 6名

2025年度からは、大学院博士課程に在籍する私費外国人留学生を対象に、学修意欲向上及び研究に専念できる環境の充実を目的として新たな奨学金制度を導入しました。

本制度では、在籍年数に応じて基礎額を段階的に増額するとともに、在籍期間中の学業・研究活動・大学行事への積極的参加などを評価し、インセンティブ（加算額）を付与する仕組みを設けています。これにより、留学生の規律維持や学修意欲の向上、主体的な研究活動を促進しています。

また、毎年「留学生研究報告会」を開催し、大学院３年次留学生が卒業前に研究成果や研究活動の進捗を共有する機会を提供しています。これにより、在籍中の研究活動がより充実したものになるよう支援しています。



第７回留学生研究報告会

研究成果発信の支援拡充

図書館はデジタル技術を活用したスマート・ライブラリ構想に基づき、大学での教育研究成果を発信する機能の整備を推進しています。



2025年度から、研究成果をより広く発信できるよう、研究者による論文のオープンアクセス化を支援する新制度を開始しました。研究成果の発信機会の拡充を通じて、国際的に活躍できる研究者の育成を支援しています。

高度実践看護コースの充実

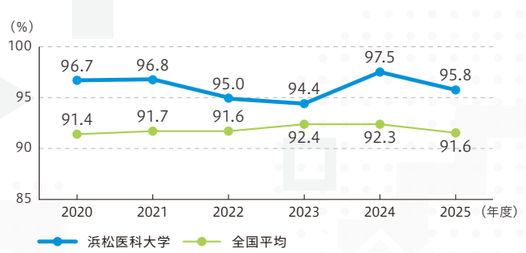
2025年度から、看護学専攻博士前期課程高度実践看護コースに、クリニカル・ナース・エデュケーター（CNE）の養成課程を開設しました。CNEとは臨床を基盤として看護職や学生の教育に携わるプロフェッショナルです。

また、2025年３月に専門看護師養成課程（老年看護学）の修了生を初めて輩出し、うち１名が専門看護師認定審査に合格しました。さらに、2026年３月には専門看護師養成課程（精神看護学）においても、初の修了生を輩出しています。

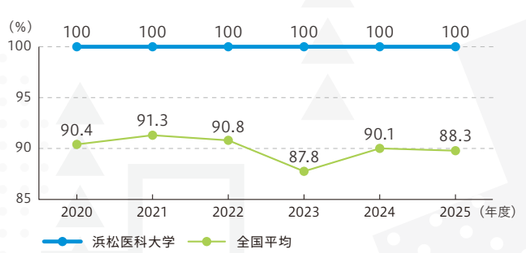
国家試験合格状況

医師国家試験は合格率100％を目指し、本学学生が全国平均に比して誤答率が高い分野について分析を行い対策を進めています。また、看護師国家試験の合格率は100％を維持しています。

医師 合格率



看護師 合格率



研究

研究の力を未来の医療へ―
先端研究基盤の強化と次世代人材の育成



理事（企画戦略・研究担当）・副学長
須田 隆文

本学では、光医学総合研究所を中核として、光医学、神経科学、マスイメージングなど、本学の特色を生かした先端医学研究を推進しています。また、学内研究プロジェクトへの助成や、研究費獲得、知的財産、産学連携に関する助言など、研究者への支援体制の充実にも取り組んでいます。

2025年度からは、新たに「ヘルスインフォマティクスセンター」を設置しました。同センターでは、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）や国保データベース（KDB）をはじめとする大規模な医療・健康データを活用し、疾患の実態や治療効果、医療の質などを明らかにする研究を推進します。大規模データを活用したリアルワールドエビデンスの創出を通じて、臨床医学のみならず、予防医学や公衆衛生、医療政策にも貢献する新たな研究基盤の形成を目指します。さらに、2026年度には「研究推進・URAセンター」を設置し、研究戦略の企画立案から競争的資金の獲得、研究プロジェクトの運営までを一体的に支援する体制を強化しました。同時に、大型研究機器の導入と共用化も進めています。

また、山梨大学を代表機関とし、本学、富山大学、福井大学が連携する「医学系研究支援プログラム（特色型）」が、日本医療研究開発機構（AMED）の医学系研究支援プログラムに採択されました。本事業では、4大学の特色ある研究基盤と専門人材を結集した「GLIAコアファシリティ」を構築し、先端研究機器の共同利用や高度な技術支援を通じて、若手臨床医・研究者が研究に取り組みやすい環境を整備します。

個別の研究では、2025年度には、食道がんに対する胸腔鏡下手術の有効性を多施設共同臨床試験により明らかにし、その成果が国際的な医学雑誌に掲載されました。また、自閉スペクトラム症と神経性やせ症の病態に、オキシトシンとバソプレシンが関与する可能性を示すなど、本学の研究力を示す成果が相次いで発表されました。

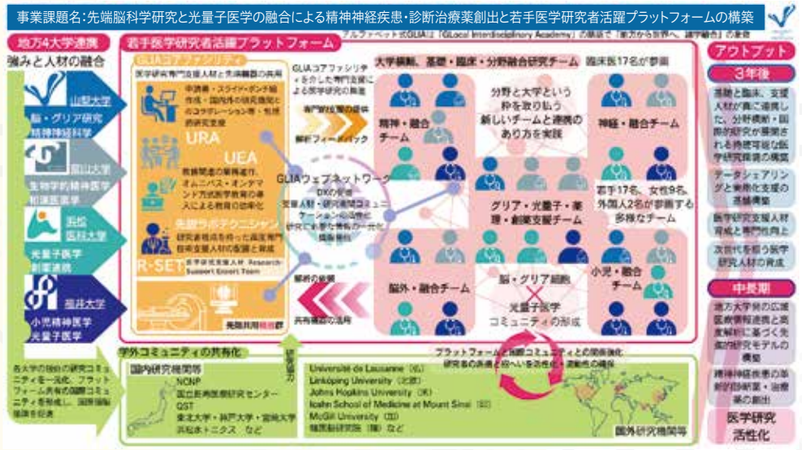
今後も、基礎研究、臨床研究、医療ビッグデータ研究という多様な研究基盤を生かし、国内外の大学、研究機関、企業との連携をさらに深めてまいります。独創的な研究成果の創出と社会実装を加速するとともに、次世代を担う研究者を育成し、地域から世界へ新しい医療の可能性を切り拓いてまいります。

将来ビジョン

- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
- こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
- 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
- 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウエルネスの創成

主なロードマップ	～2024年度	2025年度	2026年度	2027年度～
研究戦略室と5つのWGの設置	活動中			
研究支援制度の拡充	若手卓抜研究者制度の創出（2019年度）・実施中			
	戦略的共同研究支援事業の実施		TR共同研究活性化プログラムの創設・実施	
	重点研究支援事業の実施		ランクアップ研究支援事業の創設・実施	
			国際共同研究活性化プログラムの創設	
新たな研究組織の設置	光医学総合研究所設置・活動開始（2024年4月～）			
			研究推進・URAセンター設置・活動開始	
			ヘルスインフォマティクスセンター設置・活動開始	
先端機器の導入と共用化の推進	マスタープランに基づく機器導入によるイメージングコンプレックス体制の強化			
	学外web予約システムの運用開始			

2025年度「医学系研究支援プログラム」本学が連携機関として参画している山梨大学代表の事業が採択



地方大学医学部・附属病院の臨床医が抱える課題を克服し医学研究を推進するため、山梨大学と富山大学、本学、福井大学という中部地方４大学が連携し、各々の尖った強みである最先端領域分野（グリア脳科学、光量子医学、和漢医学、小児発達医学等）を融合させ、特に臨床の医師が研究にも専念し、研究を促進するための共有プラットフォームを構築します。

そして、多様性に富む若手を中心とする研究チームにより精神神経疾患の克服と新たな診断治療薬の創出にチャレンジします。さらに、４大学間の垣根を取り払った新しい医学研究支援体制と医学研究専門支援人材（Research Support Expert Team：R-SET）の配置等により研究に集中できる環境を構築することで、これらの研究を推進すると同時に、次世代の医学研究者の育成にもつなげます。

研究活動の推進

本学では、学内研究プロジェクトとして、研究費の学内助成事業を行っています。既存プロジェクトの見直しや新規事業の創設を行い、支援の強化を進めています。

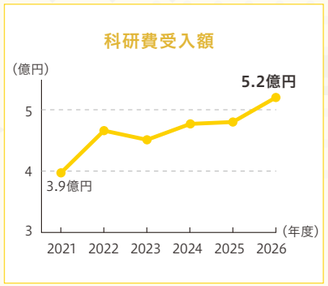
また、申請書作成方法の講習会開催等の研究支援活動も行っており、これらの研究支援効果により、科学研究費獲得額は着実に増加し、外部資金獲得額も安定的に推移しています。

学内研究プロジェクトの支援
既存のプロジェクト見直し・新規事業

戦略的共同研究支援事業	→ TR共同研究活性化プログラム
重点研究支援事業	→ ランクアップ研究支援事業
新設	国際共同研究活性化プログラム

アドバイスサービス等の実施
目的別の申請書作成講習会やアドバイスサービスを重点的に実施

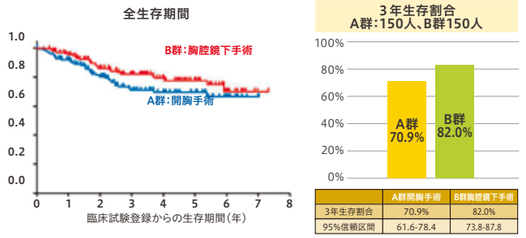
種類	内容
申請書作成講習会の開催	初心者講習会
	分野別書き方セミナー
	種目別書き方セミナー
アドバイスサービスの実施	プレアドバイス
	レギュラーアドバイス
その他	科研費研究計画調書ライブラリー



研究成果

胸腔鏡下手術が切除可能食道がんの新たな標準治療に
～開胸手術に劣らない生存期間が示され
低侵襲手術の有効性を世界で初めて報告～

外科学第二講座の竹内裕也教授は、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）食道がんグループ代表として、切除可能食道がんに対する胸腔鏡下手術の有効性を検証する多施設共同第Ⅲ相臨床試験を主導しました。全国31施設・300名を対象とした研究の結果、胸腔鏡下手術は従来の開胸手術に劣らない生存成績を示すとともに、術後の呼吸機能低下を抑制することを明らかにしました。本成果は、低侵襲手術の有効性を世界で初めて示した重要なエビデンスとして世界的に権威のある英国学術雑誌「The Lancet Gastroenterology and Hepatology」に掲載されました。



	A群開胸手術	B群胸腔鏡下手術
3年生存割合	70.9%	82.0%
95%信頼区間	61.6-78.4	73.8-87.8

全生存期間（3年生存割合）の結果

第Ⅲ相臨床試験…医薬品や新しい治療法の有効性と安全性を大規模な患者群で最終的に検証する臨床試験

オキシトシンとバソプレシンが関与して
自閉スペクトラム症と神経性やせ症に共通する特徴と真逆の
特徴が生じるという新しい仮説を提唱

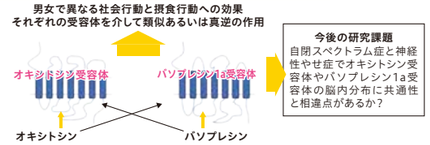
精神医学講座の山末英典教授は、自閉スペクトラム症と神経性やせ症に共通する特徴と対照的な性差に着目し、オキシトシンとバソプレシンの相互作用が両疾患の発症に関与する可能性を示す新たな仮説を提唱しました。両疾患の共通点と相違点を統一的に説明する新しい視点を提示したものであり、原因や病態メカニズムの解明に向けた重要な成果です。今後はPETを用いた受容体イメージング研究などを通じて仮説の検証を進め、これまで有効な治療薬が確立されていない両疾患に対する新たな治療法の開発につながることが期待されています。

自閉スペクトラム症
男性・男児に約4倍多い
人からの評価を気にしにくい
血液・脳脊髄液中のオキシトシンとバソプレシンが少ない

思考や行動が頑固
食事内容が限定的
成長期・発達期に出現
診断される頻度に男女差が明確
自身や人の感情を気にしにくい
顔の表情変化が少ない

神経性やせ症
女性・女児に約10倍多い
人からの評価を気にしやすい
血液・脳脊髄液中のオキシトシンとバソプレシンが多い

男女で異なる社会行動と摂食行動への効果
それぞれの受容体を介して類似あるいは真逆の作用



今後の研究課題
自閉スペクトラム症と神経性やせ症でオキシトシン受容体やバソプレシン1a受容体の脳内分布に共通性と相違点があるか？

オキシトシン：人との信頼関係や社会的行動、摂食行動などに関わる脳内ホルモン
バソプレシン：社会的行動や摂食行動、ストレス応答などに関わる脳内ホルモン

web その他にも本学の研究成果をホームページで公表しています。 https://www.hama-med.ac.jp/public-relations/press/index.html

研究推進・URAセンターの設置

2026年４月に、本学の研究戦略の企画立案及び推進を図るため、学長直轄の組織として研究推進・URAセンターを設置いたしました。

本センターでは、研究マネジメント人材（リサーチ・アドミニストレーター：URA）を配置し、各支援により研究開発マネジメントの高度化を図り、研究者が創造的かつ挑戦的な研究活動に専念できる環境整備を進めています。

研究推進・URAセンター構成員

- センター長　副学長（研究担当）
- 副センター長　准教授（URA）
- 特任助教（URA）
- 研究協力課職員

大型機器の導入

本学では、国際的な光・量子医学技術による創薬支援拠点「光・量子医学創薬支援拠点」として、光分子解析施設を中心に最先端解析機器を整備し、創薬研究基盤を強化しています。

高精度質量分析計「Orbitrap Astral Zoom」を用いた創薬支援分析システムの導入によって、創薬ターゲットとなるたんぱく質などの生体高分子の探索や高精度解析を進めています。

また、走査電子顕微鏡システムの設備一式を設置・共用利用化することで、脳神経疾患組織の超微細構造を可視化し、病態メカニズムの解明や治療薬開発につながる薬効のイメージング解析に取り組んでいます。


創薬支援分析システム


走査電子顕微鏡システム

医療

地域に貢献する医療機関として



副学長（病院担当）・
病院長
竹内 裕也

2025年４月より浜松医科大学医学部附属病院長を拝命しております。

私は病院長として本院には３つの使命があると考えております。「地域と世界に貢献する」「患者さんと職員を大切にする」「社会を先導する人材を育成する」です。またこの使命を果たすうえで５つの目標を立てました。1．患者中心の医療の実現、2．優れた医療人材の育成と職員の働きやすい環境づくり、3．先進医療と研究の推進、4．地域医療との連携強化、5．経営基盤の強化です。５名の副病院長、４名の病院長特別補佐の先生方と協力して、本年もこれらの目標を達成すべく邁進したいと存じます。

2025年度は病床稼働率90.0%、手術件数9,420件といずれも過去最高を記録し、収益は329億円超を確保しましたが、同時に人件費や診療経費の高騰も大きな課題となっております。医療を取りまく環境は厳しさを増しておりますが、本院は静岡県内唯一の大学病院・特定機能病院として地域の患者さんに安全安心かつ最良の医療を提供することを第一とし、同時に患者さんの心に寄り添った医療の実現を目指します。

また、ロボット支援手術やゲノム医療、AI画像診断のような最先端医療の推進に加えて、昨年度総合診療科外来が開設されました。静岡県内の医師不足地域への医師派遣とともに、これまで以上に地域医療への貢献を進めてまいります。

地域を支える医療機関の皆さまにおかれましては、日頃から本学、本院へ多大なご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。これからも高度な医療を提供する先進医療機関として、難治性疾患に立ち向かう最後の砦として、また優れた医療人を育成する県内随一の医育機関として地域への貢献をさらに進めてまいりますので、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

将来ビジョン

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 集約化・機能分化によるレジリエントな医療ネットワークの構築

主なロードマップ	～2024年度	2025年度	2026年度	2027年度～
安全で高度な医療の推進	救急・総合診療科診療科群及び総合診療科の新設 達成		包括的な診療への対応	
		脳卒中・心臓病等総合支援センターの新設 達成	脳卒中・心臓病患者への包括的支援	
メディカルDXによるスマートホスピタルの実現	ベッドサイドケア情報統合システム 外来WEB予約　AI問診 達成		生成AIを用いた診療文書作成	
	医用画像一元管理システム VNA（Vendor Neutral Archive） 達成			
臨床教育の充実	臨床研修プログラムの見直し 研修協力施設の拡充 達成		医師少数区域への指導医を含めた医師派遣	
	寄附講座の活用	大学とのダブルアポイント制度を利用した医療職のスペシャリスト育成		
新たな医療ネットワークの構築	院外電子カルテ情報共有システムの導入（2023年度）・電子カルテ情報共有サービスモデル事業実施			
	地域医療連携推進法人の設置準備 達成		地域医療連携推進法人（本学、浜松医療センター）の活動推進	
医療従事者の新たな働き方の実践	医療技術者による医師のタスクシフト（麻酔科医師補助業務、心血管カテーテル検査・治療清潔補助業務）			
病院運営・患者サービス	差額個室リニューアル計画 達成			
	院内Wi－Fi整備 達成	予約変更窓口の導入 達成	通院支援アプリの導入	

脳卒中・心臓病総合支援センターの開設

2025年度厚生労働省「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」の採択をうけ、2025年10月に静岡県脳卒中・心臓病等総合支援センターを開設しました。脳卒中・心臓病などに関するさまざまな課題に対し、静岡県・市町村・医療関係団体等と連携しながら、「相談支援」「情報提供」「予防・啓発」等を通じて、患者さんやご家族のサポートを行っています。

2025年度は県民公開講座、医療者対象のWEBセミナー、健康ハートの日・世界脳卒中デーにあわせた県内各所のライトアップ等を行いました。

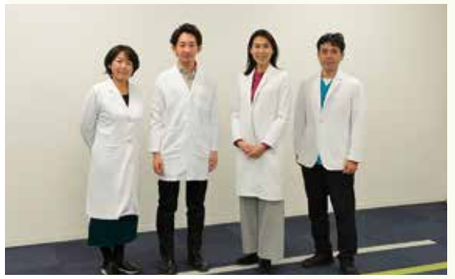


総合診療科の診療開始

2025年８月から、総合診療科が診療を開始しました。総合診療科は、原因が特定しにくい症状を有する患者さんや、複数の疾患や心理・社会的課題による影響も有する患者さんに対し、包括的な診療を提供するとともに、院内各診療科・多職種と連携しながら適切な医療へとつなげています。

また、診断困難例の受入れや治療後の地域医療機関への逆紹介を推進し、地域との連携強化に取り組んでいます。





臨床研修プログラムの充実

附属病院では、研修医一人ひとりの多様なニーズに応えるため、臨床研修プログラムの充実を図っています。小児科・産婦人科プログラムでは、2025年度募集（2026年度研修開始）から、選択コースを従来の２コースから５コースへ拡充するとともに、自由選択科の研修期間を5タームから８タームへ延長しました。さらに、「感染制御センター」「総合診療科」を自由選択科に加え、より幅広い分野を経験できる環境を整備しました。また、研究分野で活躍する医師の育成を目的として「基礎研究医プログラム」を再設置し、2026年度から募集を開始しました。

今後も、地域医療を支える良質な医師の育成に努めるとともに、研修医一人ひとりの多様なキャリア形成を支援してまいります。



ICLS



中心静脈カテーテル挿入

スカイリハビリテーションルームの整備

附属病院では、病棟８階に「スカイリハビリテーションルーム」を整備しました。リハビリを受ける患者さんの増加に伴い、外来棟にあるリハビリテーション室が混雑し、動線の確保や安全なリハビリ環境の維持が課題となっていました。そのため、患者さんがより安全かつ快適にリハビリを受けられる環境を確保することを目的に、新たなスペースの整備を進めました。

新たな施設は病棟８階の広々とした空間を活用しており、患者さん同士に十分な距離を確保できるようになりました。また、病室からの移動距離が短くなったことで身体的な負担が軽減され、より安心してリハビリに取り組める環境が実現しました。さらに、大きな窓から自然光が差し込む開放的な空間は患者さんからも好評で、前向きな気持ちでリハビリに臨める環境づくりにもつながっています。



スカイリハビリテーションルーム

社会連携・地域連携

イノベーションの創出と地域連携



副学長
（共創・イノベーション担当）
中村 和正

本学では、将来ビジョンの実現に向け、地域との共創とイノベーションを推進する様々な取組を展開しています。

次世代創造医工情報教育センター（Nx-CEC）では、医学部におけるアントレプレナーシップ教育及びAI・データサイエンス教育に力を入れています。2026年度には浜松市と協力し、浜松市消防局の出動に関するビッグデータを用いて需要予測モデルを構築いたしました。

地域創成防災支援人材教育センター（R-CEC）では、医学部学生への防災士教育、地域の看護職向け災害医療セミナー、防災体験プログラムなどを通して防災意識の向上と普及に努めるとともに、医療目利き人材の養成に取り組んでいます。

2025年度に設立した地域医療教育システム開発センター（R-DEC）では、地域に根付く総合的な診療能力を持つ医師の育成及び医師少数区域等にて専門医を育成できるシステムの構築を目指して活動しています。

医薬品・医療機器開発については、産学官連携実施法人「株式会社はままつ共創リエゾン奏」を中心に活動しており、スタートアップ支援室、Nx-CECが協力しながら、地域発の革新的イノベーション創出を目指してまいります。

少子高齢化や人口減少が進む中、地域の産業振興、課題解決、人材育成といった地域貢献は国立大学法人の使命のひとつでもあります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

将来ビジョン

- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
- 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウエルネス社会」の共創

主なロードマップ	～2024年度	2025年度	2026年度	2027年度～
産学官金連携の推進	産学官連携実施法人の設置・活動開始			
	ホスピタルラボの設置・活動開始（2023年度）			
	次世代創造医工情報教育センター設置・活動開始（2022年度）			
	地域創成防災支援人材教育センター設置・活動開始（2023年度）			
	地域診療教育システム開発センター設置・活動開始			

地域創成防災支援人材教育センター（人材育成の取組）

地域創成防災支援人材教育センター（R-CEC）は、地域の社会課題、特に感染症を含めた救急・災害医療等に対してイノベーションを起こし、地元自治体や企業など地域と共創しながら、防災支援のための地域人材を養成し、地域の課題解決を推進することを目的として活動しています。

親子で学ぶ防災体験プログラム「避難所チャレンジ」の開催

2025年度社会貢献事業の一環として、8月4日に浜松こども館との共催により、本学にて【こどもを対象とした救急防災教育プログラム】「避難所チャレンジ」を開催しました。

本プログラムは、災害医療の視点を取り入れた実践的な防災教育として実施され、当日は20組41名の親子が参加しました。ワークショップでは、災害関連死を防ぐための健康危機管理に焦点を当て、なぜ避難生活で不可欠となる「TKB（トイレ・キッチン・ベッド）」の確保が重要なのかをテーマに、非常用トイレの仕組み、非常食の作成・試食、非常用簡易ベッドの組立てなどに取り組みました。

参加者は、日常生活では経験する機会の少ない避難所の環境づくりを疑似体験することで、災害時に自分自身や周囲の人の「いのちと健康」を守るための知識と行動力を親子で共に学びました。

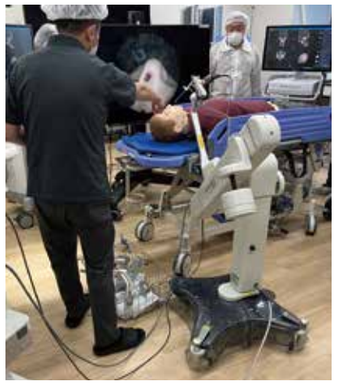
R-CECでは、今後も地域や企業と連携し、医療の専門性を活かした防災教育を通じて、地域の防災力強化に貢献してまいります。





産学官連携の取組

地域企業と医療・介護現場をつなぐプラットフォームとして、本学が中核となって運営する「はままつ医工連携拠点」は、浜松商工会議所浜松医工連携研究会（100社）と協働しています。現場との対話や視察を通じて課題を共有し、企業・研究者の技術や知見と融合することで、新たな医療機器やサービスの開発を推進しています。



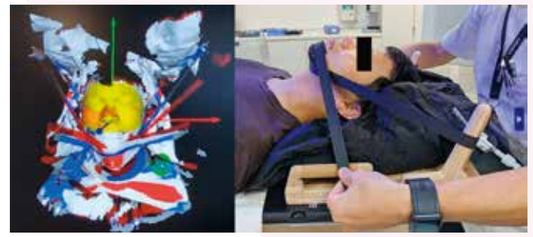
医療・介護現場見学会の様子

実用化された開発技術

本学では、大学発ベンチャー企業を含めた民間企業等との共同研究によって生まれた研究シーズを実用化・製品化することにも力を注いでいます。

［事例］
放射線治療装置用頭部固定具

放射線腫瘍学講座の中村教授が開発した放射線治療用マスクレス頭頸部固定具について、民間企業と実施許諾契約を締結しました。



本技術は、体表面誘導放射線治療において、頭部から肩までを吸引パックで支持するとともに、顎部のみを固定する独自構造を採用しています。これにより、患者の圧迫感や閉塞感を軽減しながら、従来の頭頸部用マスクを使用することなく、高精度な位置合わせと治療の再現性向上を実現します。

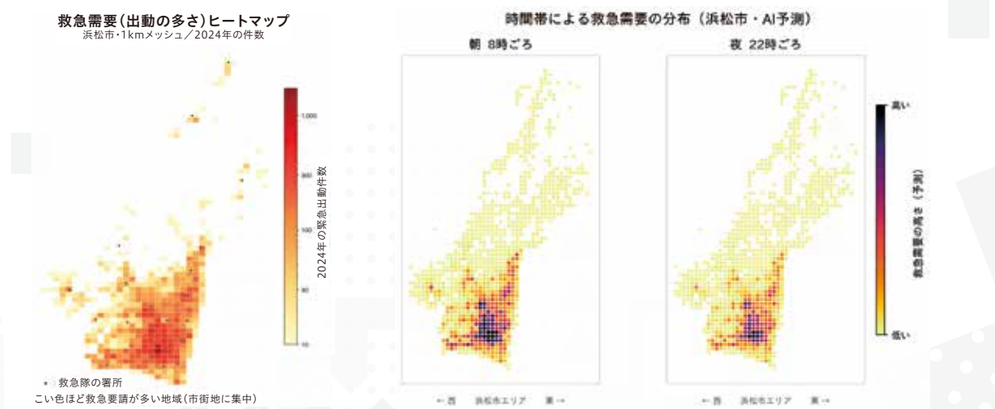
次世代創造医工情報教育センター（地域連携の取組）

次世代創造医工情報教育センター（Nx-CEC）では、アントレプレナーシップ教育、データサイエンス教育を通して、医療のDXを推進し、地域のwell-beingや医工連携を推進するとともに、医療分野における新たな価値を創造し、地域と共創して持続可能で強靭な健幸社会の創生への貢献を目指しています。

浜松市消防局との救急需要予測モデルの構築の取組

高齢化で救急車の出動は年々増加し、浜松市では地域による到着時間の差や、一部の救急隊への負担の集中が課題となっています（国の目安は「通報から10分以内の到着」、市の直近実績は平均10分25秒）。そこで本学と浜松市消防局は、過去６年・約23万件の出動データを分析し、市内を約1km四方のマス目に区切って「どこで到着が遅れやすいか」を地図上で見える化しました。さらに、救急隊をどこに増やせば到着時間の短縮と隊員の負担軽減に最も効果があるかをシミュレーションしました。

この結果は、浜松市消防局の増隊計画の判断材料として活用され、限られた救急車をより効果的に配置する意思決定を後押ししました。データにもとづき、「いざというときに一秒でも早く駆けつける」体制づくりに貢献しています。



業務運営

2040年を見据えて



理事（財務担当）・
事務局長
三沼 仁

2025年度は、第４期中期目標期間における中間評価（４年目終了時評価）対象期間の最終年度であり、計画の着実な達成を見通しながら必要な改革に力を入れつつ、2028年度からスタートする第5期中期目標期間に向けた機能強化の方向性等についての議論を開始した年度でした。

業務運営においては、ダイバーシティの推進に力を注ぎながら、自主財源の確保、業務運営上の基盤整備などに積極的に取り組みました。

ダイバーシティの推進に関しては、2025年４月に担当副学長を配置するとともに、2026年４月には推進組織を新設するなど、ダイバーシティ推進のための体制を強化しました。

自主財源の確保に関しては、リスクと収益性のバランスを考慮しながら余裕金の運用に積極的に取り組み、運用収入は2024年度に比べ約1,500万円増の約5,300万円を確保しました。また、2026年７月には、政府が資金運用立国の実現に向けた政策プランの一環として策定した「アセットオーナー・プリンシプル」の受入れを宣言しました。

業務運営上の基盤整備に関しては、業務用PCを含めキャンパス情報システムを更新し、通信環境や利便性の向上、セキュリティ機能の強化に取り組みました。また、若手職員の自発的な発案により2021年度に発足した「MiRAI-WS（未来ワークショップ）」では、キャンパス情報システムの更新を契機に、生成AIやデジタル技術等を活用した業務改革の方策等について活発に議論し業務改善事例集を取りまとめました。

我が国における急速な少子化・人口減少やAI・デジタル化の進展などの社会情勢の変化を踏まえ、国から高等教育機関に対しては、知の総和（人数×能力）の向上に向け、大学ごとのミッション・機能強化の方向性の明確化や、そのための組織見直しなどを求められています。

本学は、高等教育機関であると同時に医療機関も設置していますので、少子化だけではなく高齢化の進展や医療需要の変化等にも目を向けつつ、高度医療人材の育成、強みを生かした研究力の強化、静岡県の医療提供体制の充実など様々な課題に対し迅速かつ的確に対応できるよう、業務運営・財務運営の観点からも更なる改革に努めていきたいと思います。

将来ビジョン

- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的大学運営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・コモンズの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

主なロードマップ	～2024年度	2025年度	2026年度	2027年度～
外部有識者やステークホルダーとの対話	統合報告書の発行			
財源の多元化と資産運用等の拡大	投資信託等による運用の検討			
施設整備、デジタル・キャンパスの推進			体育館の改修	利用開始
	ホスピタル・ラボの設置	達成 利用開始		
	光分子解析施設の設置	達成 利用開始		

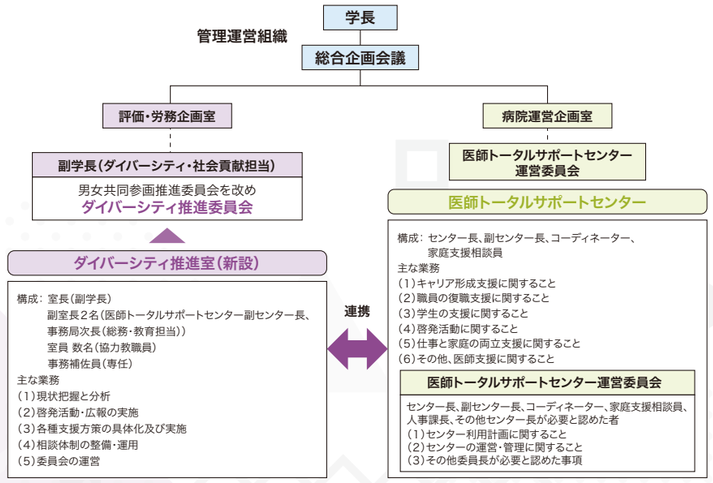
多様な人材が活躍できる環境づくり

本学では、これまでも男女共同参画の推進を通じて、教職員が働きやすい環境づくりに取り組んできました。2026年4月には、これらの取組を発展させ、多様な背景や価値観を持つ教職員一人ひとりが能力を発揮できる環境の実現を目指して、ダイバーシティ推進室を設置しました。

また、男女共同参画推進委員会を改組し、ダイバーシティ推進委員会を設置することで、全学的な推進体制を強化しました。

現在は、現状把握や啓発活動、各種支援施策、相談体制の整備などを進めるとともに、医師トータルサポートセンターと連携しながら、多様な人材が活躍できる組織づくりを推進しています。

ダイバーシティ推進室　副学長のもとにダイバーシティ推進室を新設。医師トータルサポートセンターと連携してダイバーシティに関する企画・運営を行う。

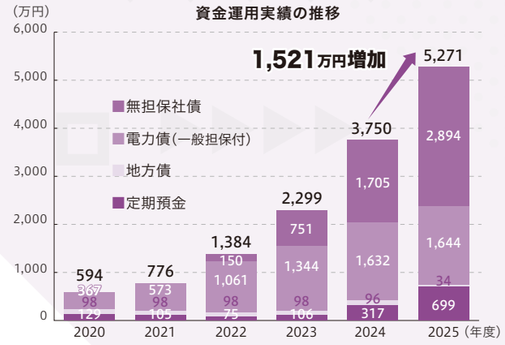


資金運用拡大の取組

業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定を受けたことにより、安定した中長期的な運用を見据え、収益性の高い金融商品での運用を始めています。

資金運用管理委員会において、金融資産のリスク・リターンの詳細を見極め、外部委員を含めた審議体制にて積極的に投資したことで運用実績が向上しています。

2025年度は11億円の定期預金の預入れや３億円の地方債の入替えを行った結果、運用益は2024年度と比較して1,521万円増加しました。



キャンパス情報システムの更新

2025年９月にキャンパス情報システムを更新し、研究・教育・業務を支えるICT基盤を強化しました。管理系サーバの一部をクラウドへ移行するとともに、学内にも管理サーバを配置し、障害や災害発生時にも安定した運用を継続できる環境を強化しました。

無線ネットワークはWi-Fi ６E対応機器へ刷新し、AIを活用した電波制御やeduroamの導入により、学内外で快適かつ円滑な教育・研究活動を支援しています。また、認証基盤「浜医ID」の導入とMicrosoft Entra IDとの連携により、シングルサインオンを実現し、利用者の利便性と管理効率が向上しました。さらに、事務端末のノートPC化やサイバー攻撃対策システム（NETSCOUT）の導入により、多様な働き方への対応と情報セキュリティの強化を推進しています。



デスクや会議室での利用に対応した
有線/無線対応型ノートPC（dynabook）



AIにより電波を自動制御する
無線アクセスポイント（RUCKUS）



DDoS攻撃等のサイバー攻撃に対応した
NETSCOUT Arbor Edge Defense（AED）

若手職員の発想を業務改善・大学改革へ― MiRAI-WSの取組

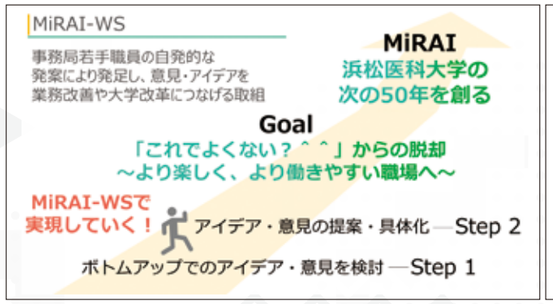
MiRAI-WS（未来ワークショップ）は、事務局若手職員の自発的な発案により2021年に開始した取組です。

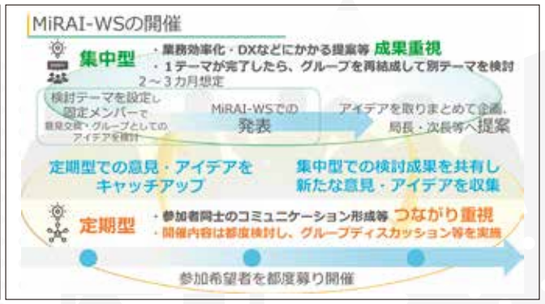
事務局入局１～10年目の職員を主な対象として、部署を越えた意見交換やアイデアの検討を行い、業務改善や大学改革につなげることを目指しています。

近年は、業務効率化やDXをテーマとする「集中型*」を実施し、大学で導入しているMicrosoft 365の有効活用について検討を行いました。その成果として、Copilot、Teams、予定表及びPlannerの活用提案を事務連絡会で報告したほか、事務局内の工夫や実践事例をまとめた「業務改善事例集」を作成しました。

今後も若手職員の視点や発想を生かし、より働きやすく、持続的に成長できる大学づくりに取り組んでいきます。

*集中型：メンバーを募集し、特定のテーマについて期間を決めて検討を行うもの

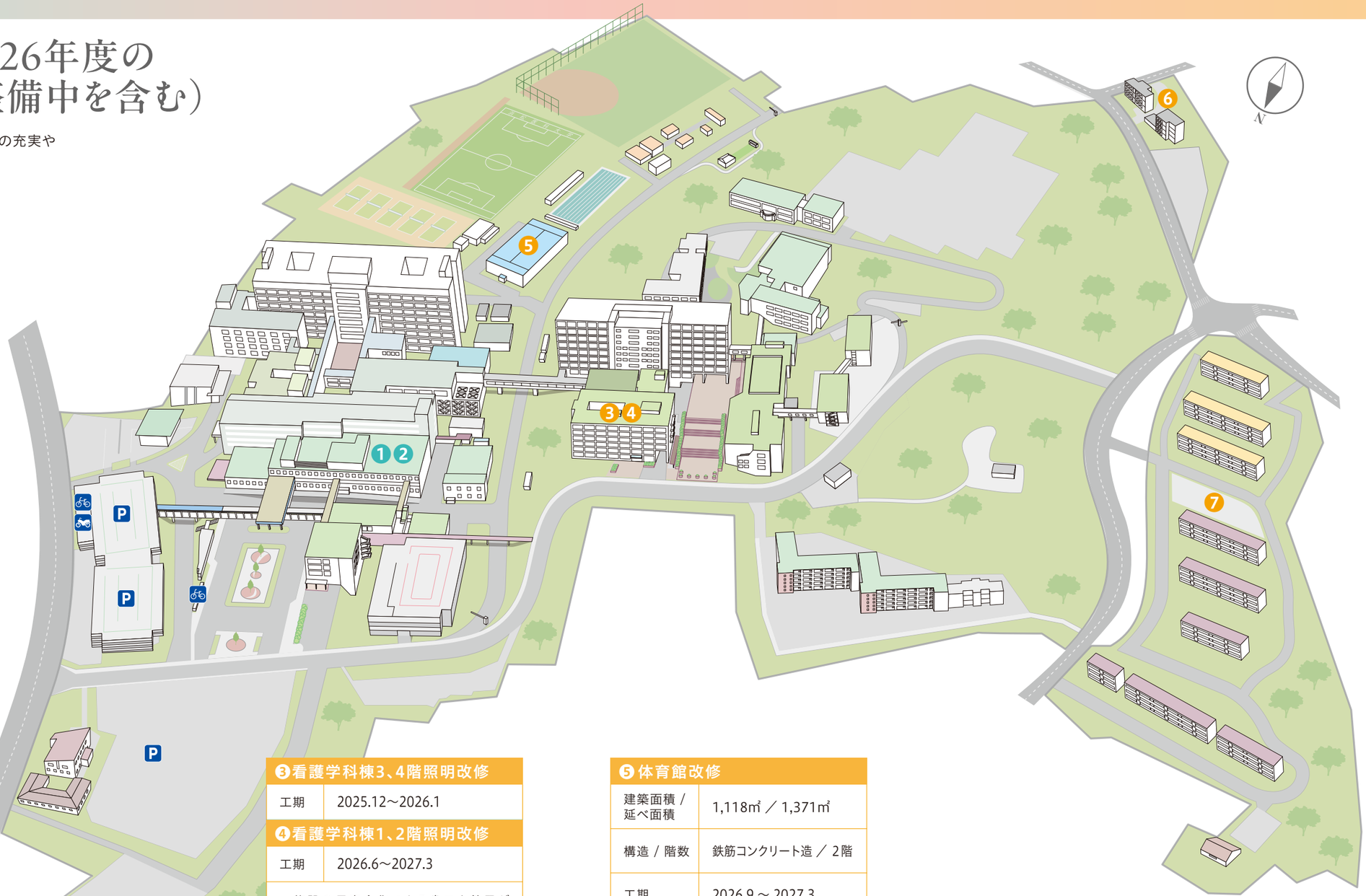




2025年度から2026年度の主な施設整備（整備中を含む）

教育・研究・医療・産学官金連携に係る環境の充実や
来学される方々の利便性向上のため、
様々な施設・設備を整備しています。

- 病院施設
- 大学施設
- 基幹環境整備



❶外来棟3階照明改修

工期	2025.4～2026.3（Ⅲ期）

❷外来棟1、2階照明改修

工期	2026.9～2027.3（Ⅳ期）

静岡県医療提供体制施設整備事業費補助金（地球温暖化対策施設整備事業）により、省エネ効果が高い24時間365日点灯している病棟廊下等の照明をLEDへ更新することで、地球温暖化対策への取組を推進します。

ライフライン再生

対象／工期	中央監視／2025.4～2026.3 屋外ガス管／2026.4～2027.3 屋外通信設備／2026.10～2027.2 電話交換機設備更新／2026.10～2027.2

施設の長寿命化を実現させるため、老朽化が進行したライフラインの健全化を図り、未然に事故を防止します。安全・安心な教育・研究・医療環境等を確保するため、計画的に対策を実施しています。

❸看護学科棟3、4階照明改修

工期	2025.12～2026.1

❹看護学科棟1、2階照明改修

工期	2026.6～2027.3

施設の長寿命化による省エネ効果が高い看護学科棟廊下等の照明をLEDへ更新することで、地球温暖化対策への取組を推進します。

❺体育館改修

建築面積／延べ面積	1,118㎡／1,371㎡
構造／階数	鉄筋コンクリート造／2階
工期	2026.9～2027.3

学外者を招く式典や災害時の帰宅困難者への避難場所として利用する屋内体育施設を長寿命化改修により施設内の多目的トイレとバリアフリー化、アリーナ用に空調設備の設置、外構にはマンホールトイレを整備しています。



❻国際交流会館屋上防水・外壁改修

建築面積／延べ面積	（単身棟）207㎡／555㎡ （世帯棟）148㎡／568㎡
構造／階数	鉄筋コンクリート造／4階
工期	2027.1～2027.7（予定）

施設の長寿命化改修により安心・安全な居住環境を提供します。

❼旧職員宿舎（G棟）取り壊し→駐車場

建築面積／延べ面積	338㎡／1,096㎡
構造／階数	鉄筋コンクリート造／4階
工期	2026.3～2026.7

廃止した旧職員宿舎を取り壊して職員用駐車場（47台分）に整備しています。

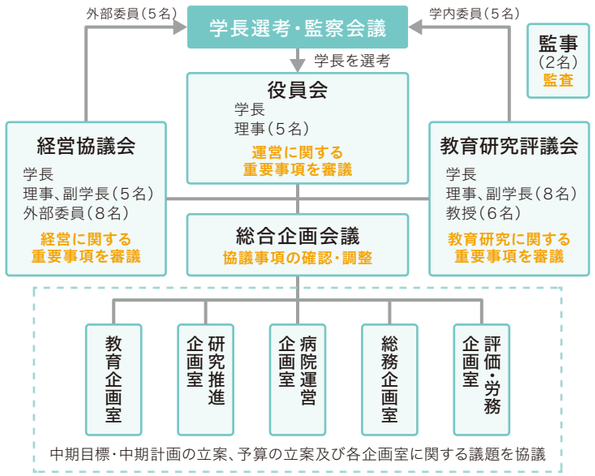
内部統制の整備に関する情報等

運営組織図

本学では、各分野の専門的事項等を協議するため５つの企画室を置き、室長には、その分野を所掌する理事、副学長を充てています。この企画室では、中期目標・中期計画の立案及び予算の立案について一体的に協議を行うことにより、目標達成に向け効率的な体制を構築しています。

さらに、学長や各企画室長等で構成される総合企画会議では、各企画室において協議された事項について、改めて確認・調整を行った上で、中期目標・中期計画や予算等の重要な事項については、国立大学法人法で設置が定められている教育研究評議会、経営協議会及び役員会において審議しています。

また、国立大学法人法に基づき本学の業務を監査するため監事を置いています。

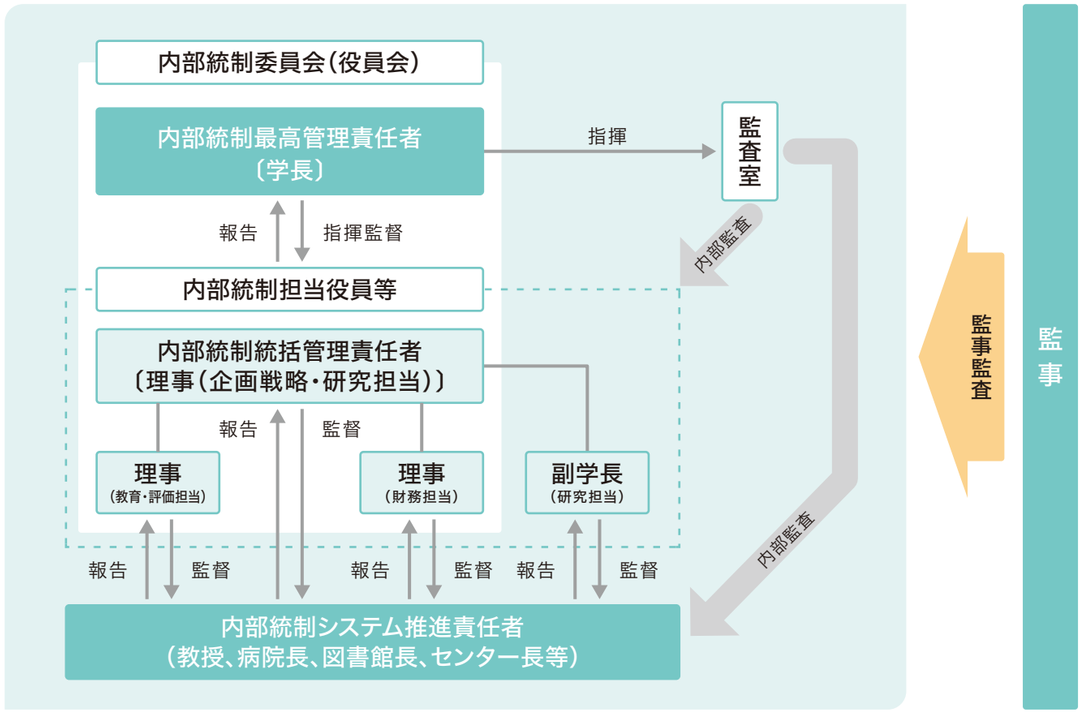


内部統制

本学では「国立大学法人浜松医科大学業務方法書」に基づき、業務の適正を確保するための体制を整備・運用するため、「国立大学法人浜松医科大学内部統制システムの整備及び運用に関する規則」を定めています。内部統制は、「①業務の有効性及び効率性、②事業活動に関わる法令等の遵守、③資産の保全、④財務報告等の信頼性」を目的としており、本学は以下に示す体制により内部統制システムを運用しています。

本学は内部統制システムの継続的な見直しを行いながら、業務の有効性・効率性の向上を図りつつ、コンプライアンスを推進し、関係者の皆様の期待に応えられるよう努めています。

内部統制に係る組織図（イメージ）



国立大学法人ガバナンス・コードへの対応

国立大学法人ガバナンス・コードは、国立大学法人に高い公共性が求められ、各種の財政支援等が行われていることから、強固なガバナンス体制を築くとともにそのことを多様な関係者に対して明らかにするため、政府の「統合イノベーション戦略（2018年６月15日閣議決定）」を踏まえ、2020年３月に国立大学協会が文部科学省、内閣府の協力を得て策定しました。

ガバナンス・コードの実施を通じて教育・研究・社会貢献機能を高めるとともに、経営の透明性を高めて、社会への説明責任を果たすため、毎年度、その適合状況に関する報告書を公表しています。

なお、ガバナンス・コードは77の基本原則、原則、補充原則から構成されており、本学は全ての原則に対応していることを確認しております。

web　国立大学法人ガバナンス・コードへの対応状況は、ホームページで公表しています。
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/governancecode.html

研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応

本学では、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（2014年８月26日 文部科学大臣決定）」及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（2007年２月15日 文部科学大臣決定 2021年２月１日改正）」に基づき、以下の責任体制の下、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止に向けて取り組んでいます。

責任体系

研究費の運営・管理

研究費不正防止最高管理責任者	学　長	■法人統括
研究費不正防止統括管理責任者	理事（財務担当）	■学長補佐 ■研究費不正防止統括
コンプライアンス推進責任者	事務局次長（総務・教育担当）	■不正防止対策の実施 ■コンプライアンス教育の実施・管理
各講座等の主任教員		■所属職員への周知徹底 ■法令及び関連規則遵守 ■研究費適正使用の遵守

研究活動の不正行為防止

研究公正最高責任者	学　長	■法人統括
研究公正統括責任者	副学長（研究担当）	■学長補佐 ■不正行為防止事務統括
倫理教育統括責任者		■学長補佐 ■研究者倫理向上事務統括
研究公正・倫理教育責任者	各講座等の主任教員	■所属職員への周知徹底 ■法令及び関連規則遵守 ■研究者倫理の向上

関係組織等

研究費不正防止計画推進委員会
・不正防止計画の策定・実施
・実施状況及び監査結果の確認と必要に応じた是正対応

研究活動公正推進委員会
・研究倫理の向上を図るための教育、研修及び啓発
・不正行為への対処並びに研究の公正な推進

窓　口

監査室
・告発窓口

研究協力課
・研究活動の不正行為防止

会計課
・研究費の運営・管理

主な取組

■スタートアップミーティングの実施（関係各部署の事務局職員が国等からの受託研究費を獲得した各講座等担当者（教員・事務補佐員）に対して個別に執行ルールや事務手続等の注意事項などを説明し、連携・情報共有・意識統一を図ります。）
■定期的な不正防止に関する講習会の実施
■e-learningによる研究倫理教育の実施

web　研究費の不正使用防止等に関する基本方針や規則等は、ホームページで公表しています。
https://www.hama-med.ac.jp/research/fraudulent/index.html

国立大学法人の会計制度

本学を支えてくださる多くの皆様に、本学の財務情報の概要をご理解いただくため、国立大学法人特有の会計制度について、簡潔にご説明いたします。

国立大学法人会計と官庁会計、企業会計との違い

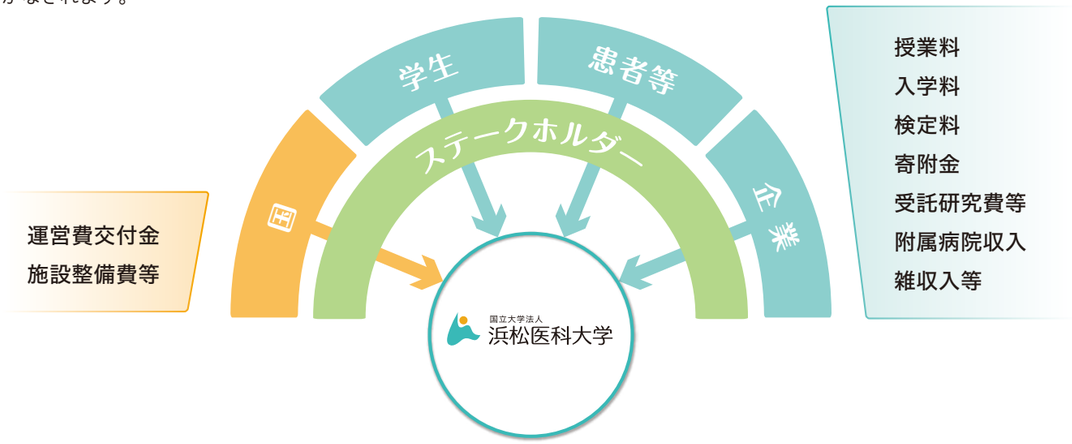
国立大学法人の会計制度は、企業会計原則を基本としていますが、国立大学という公共的な性格や特殊性を踏まえて、企業会計とは異なる独特な会計制度（国立大学法人会計基準）が採用されています。

区分	目的	利害関係者	利益の獲得
国立大学法人会計	財政状態・運営状況の開示	国民その他の利害関係者	目的としない
官庁会計	予算とその執行状況の開示	国民、住民	目的としない
企業会計	財政状態・経営状態の開示	株主、投資家、債権者等	目的とする

- 主たる業務は「教育・研究」等のサービス提供であり、利益の獲得が主目的ではありません。
  例外的に附属病院における診療等については、利益の獲得はある程度考慮され企業会計と同様な処理となります。
- 独立採算を前提とせず、国からの財政支援（運営費交付金等）があります。

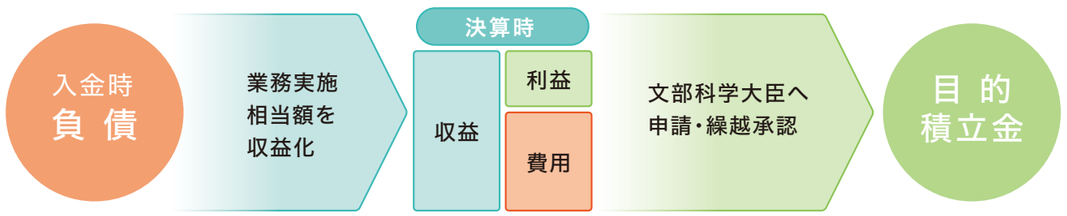
国立大学法人会計の財源（収入源）

国立大学法人は、国からの運営費交付金、学生からの納付金（授業料、入学料、検定料）、附属病院収入、企業からの寄附金、受託研究費等を財源（収入源）として運営されています。それぞれの財源（収入源）はそれぞれの性質に応じて会計処理がなされます。



国立大学法人の利益

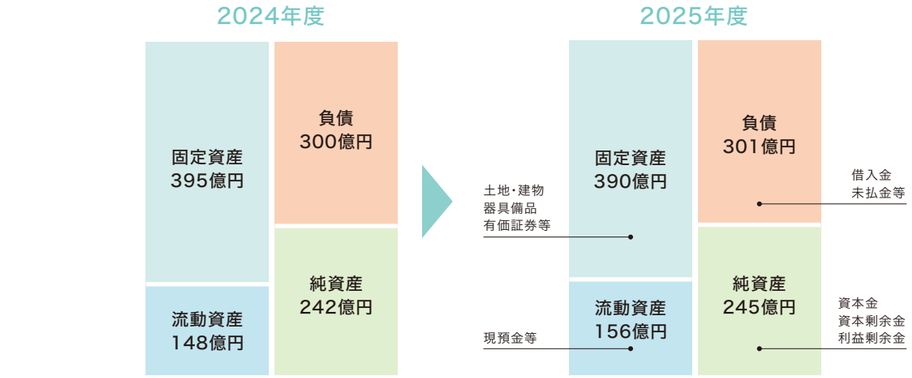
国立大学法人の利益は、計画された業務を効率よく実施したことによる費用の削減や、積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益です。この利益のうち、大学の運営努力によるものとして文部科学大臣の繰越承認を受けた利益は、「目的積立金」として、中期計画で定めた使途に従い、次年度以降「教育研究診療の質の向上及び組織運営等の改善」のために使用することができます。



財務諸表等の概要

貸借対照表

事業年度決算日3月31日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。土地、建物や器具備品等の資産、借入金等の負債及び国からの出資等の純資産を元に教育、研究及び診療の業務活動を行っています。



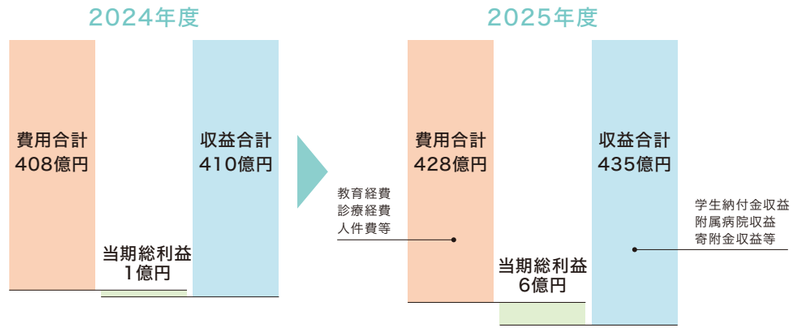
主な増減要因等

・固定資産（前年度比5億円減）
固定資産から流動資産への振替による減少（来期に償還期限が到来する投資有価証券）、減価償却の増加による減少

・流動資産（前年度比8億円増）
固定資産から流動資産への振替による増加（来期に償還期限が到来する投資有価証券）、未収附属病院収入の増加

損益計算書

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにするものです。教育、研究及び診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金収益や附属病院収益等の財源別に収益を示します。



主な増減要因等

・費用（前年度比20億円増）
高額薬の使用増加による材料費の増加、物価高騰による影響、人事院勧告への対応等による人件費の増加

・収益（前年度比25億円増）
入院患者数の増加や高額薬使用等による診療単価の向上に伴う附属病院収益の増加、補助金の受入額増加による補助金等収益の増加

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

財務諸表等の概要

キャッシュ・フロー計算書

事業年度の資金の流れを「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の3つの区分に分けて表示しています。

[業務活動によるキャッシュ・フロー]

国立大学法人等の通常の業務の実施に係る資金の状態を表します。資金を獲得した場合はプラス、流出した場合はマイナスになります。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

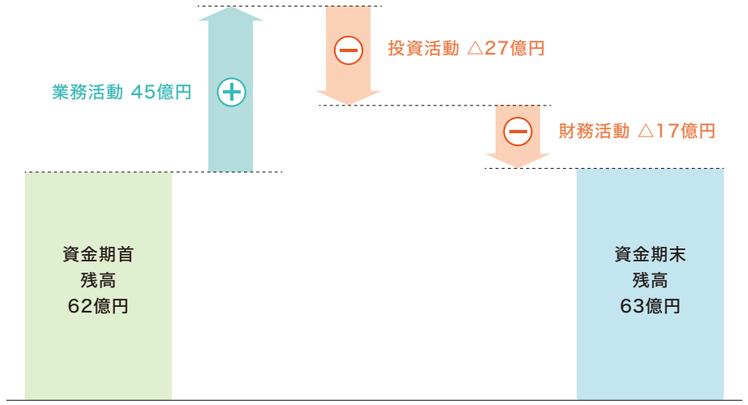
将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表します。資産等売却の場合はプラス、資産等への投資の場合はマイナスになります。

例：固定資産の取得による支出、施設費による収入など。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

資金の調達及び返済に係る資金の状態を表します。資金を調達した場合はプラス、債務等を返済した場合はマイナスとなります。

例：大学改革支援・学位授与機構からの長期借入金の返済による支出、長期借入による収入など。



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

〈参考〉キャッシュ・フロー計算書のパターンと判定

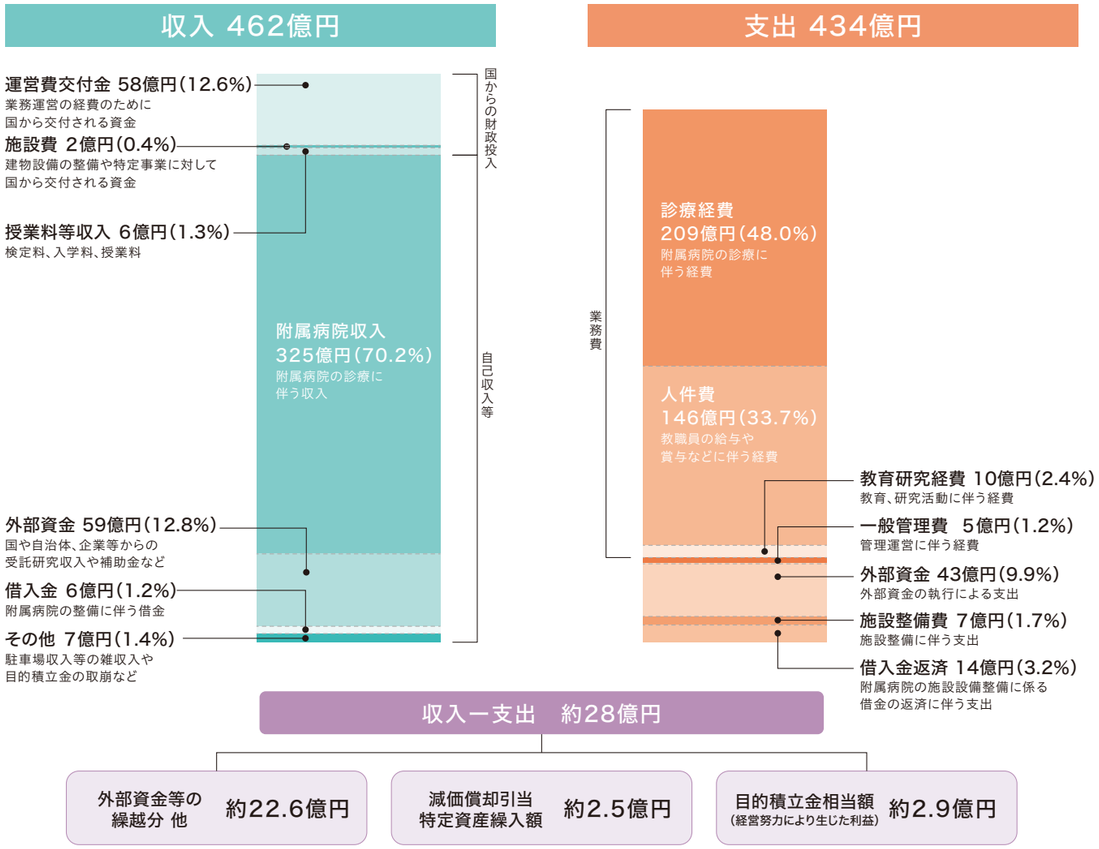
今回、「業務活動」についてはプラス、「投資活動」・「財務活動」についてはマイナスとなっているため、パターン④に該当します。国立大学法人で通常想定されるパターンであり、健全な事業活動を行っています。

	業務	投資	財務	財務状況	備考
①	＋	＋	＋	不必要な資金調達を行っており、資金に無駄がある。	
②	＋	＋	－	本業で資金を獲得し、借入金返済に充当する一方で、設備投資を抑制している。	
③	＋	－	＋	本業で資金を獲得し、さらに借入による設備投資も行っている。	国立大学法人で通常想定されるパターン。
④	＋	－	－	本業で資金を獲得し、設備投資や借入金返済に充当している。**本学はこれに該当しています。**	
⑤	－	＋	＋	本業で資金が不足しているため、借入により賄い、投資も抑制している。	一般的に、附属病院等で赤字が出ている等、資金不足となっている状況。
⑥	－	＋	－	本業で資金が不足しているため、投資を抑制し、借入金返済を行っている。	
⑦	－	－	＋	本業で資金が不足しているため、借入により設備投資を行っている。	
⑧	－	－	－	本業で資金が不足しているが、設備投資を行い、借入金返済も行っている。	

決算報告書

決算報告書とは、国における収益認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。

収入については、附属病院収入等の自己収入が運営資金の大半を占めています。また、支出については、業務費のほとんどを診療経費と人件費で占めています。

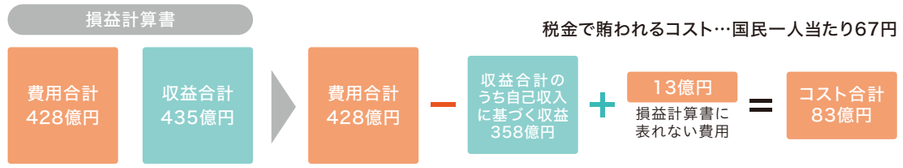


2025年度は、収入が支出を上回り、約28億円の剰余が発生しています。そのうち、使途が限定されている繰越分等を除いた約2.9億円は文部科学大臣の承認を受けた後、目的積立金として大学の裁量で使用可能です。

※各金額は単位未満を四捨五入しているため、計が一致しない場合があります。

国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

教育・研究・診療等の業務運営に関して、どれだけの費用（コスト）が国民の税金で賄われているか注記して表しています。業務に対する評価及び判断に資するものです。



※各金額は単位未満を四捨五入しているため、計が一致しない場合があります。

減価償却引当特定資産

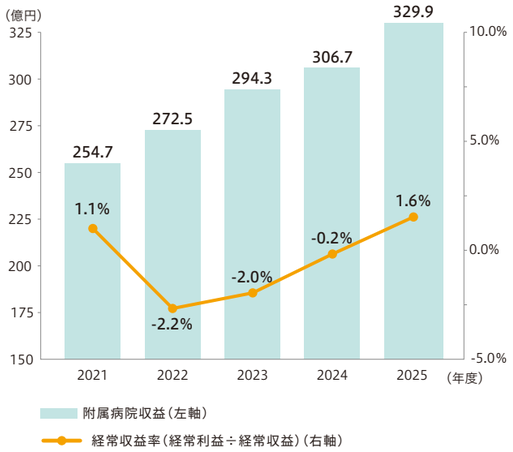
法人が自らの意思に基づき、将来の特定の支出に備えるために積み立てた預金等の資産のうち、施設設備の更新に備えるために積み立てた資産をいいます。

医学部附属病院の財務状況

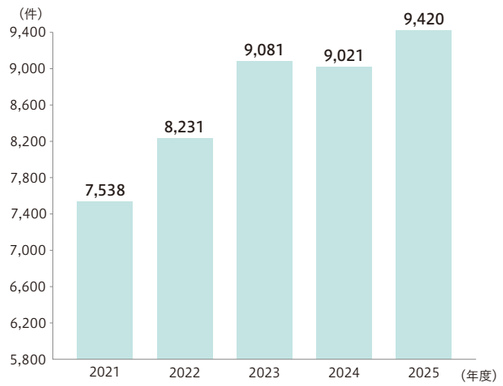
附属病院の診療経費について、大学病院としてふさわしい高度な医療の提供に必要となる高額な医薬品・診療材料の使用増に伴い、前年度と比較すると医薬品費が8.3%（約7.6億円）増 、診療材料費が11.7%（約5.9億円）増となるなど、診療に必要な経費全体で5.4%（約18.0億円）増となっています。対して、病床稼働率は90.0%と前年度を上回り、手術件数も9,420件と３年連続で9,000件を超え、100床当たりの手術件数は国立大学病院でもトップクラスを維持しており、病院収入は7.4%（約22.5億円）増となりました。

一方で、水道光熱費等の高騰は一時期より落ち着いたものの、依然として高い水準で推移しているほか、物価高騰や人件費の上昇などが経営を圧迫しています。また、2024年度までと比較して収益率は改善しているものの、その要因の一部には設備更新の抑制に伴う減価償却費の減少が含まれており、経営基盤が十分に改善したとは言い難い状況です。今後は、診療報酬改定の影響を注視しながら、病院収入の増加に向けた取組に加え、経費削減を恒常的に意識した調達方法の見直し等を継続し、安定的かつ持続可能な病院経営の実現に努めてまいります。

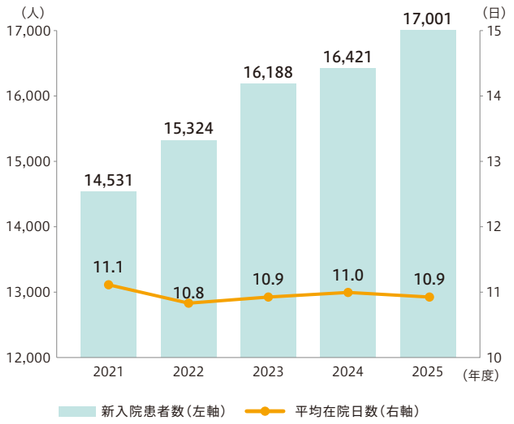
附属病院収益及び経常収益率



手術件数

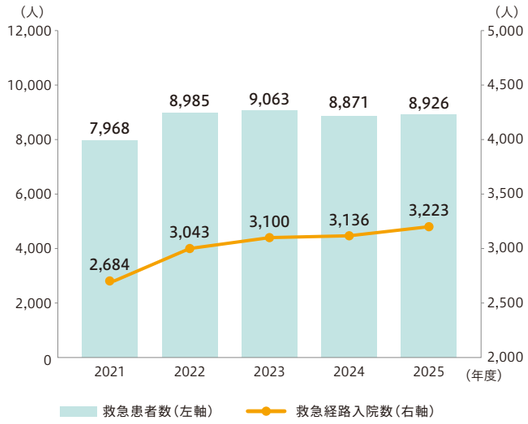


新入院患者数、平均在院日数



※平均在院日数：患者さんの入院日数の平均値を示すもの

救急患者数、救急経路入院数



※救急経路入院数：救急外来から入院した患者数

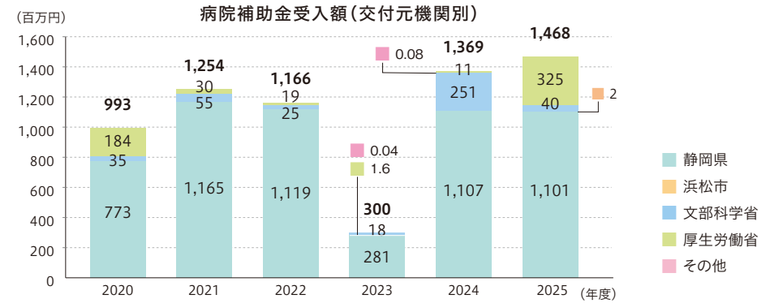
補助金の獲得状況

診療による病院収入以外にも、補助金は附属病院における貴重な収入源の一つであり、交付元機関別にみると全体の約8割を静岡県から交付いただいています。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった2020年から2022年にかけては、静岡県のほか厚生労働省から新型コロナウイルス感染症関連補助金による多くのご支援をいただき、収入の落ち込みや感染対策経費の増加を乗り越えることができました。2022年度以降は、静岡県の設備整備補助金等を積極的に活用し、先進医療の提供に必要な医療機器の更新を進めています。

また、2024年度からは静岡県の勤務環境改善医師派遣等推進事業の支援を受け、医師の労働時間短縮や勤務環境改善に向けた取組を強化しています。

さらに2025年度には、厚生労働省の補正予算による「医療機関等における賃上げ・物価高騰対策支援事業」の支援を受けました。本事業は、医療現場における賃金上昇や物価高騰への対応を図るとともに、今後の診療報酬による対応を先取りする形で措置されたものであり、厳しい経営環境下にある医療機関の経営安定化に大きく寄与しました。当院においても、こうした支援を有効に活用しながら、人材確保や処遇改善を進めるとともに、質の高い医療提供体制の維持・強化に努めています。

病院補助金受入額（交付元機関別）



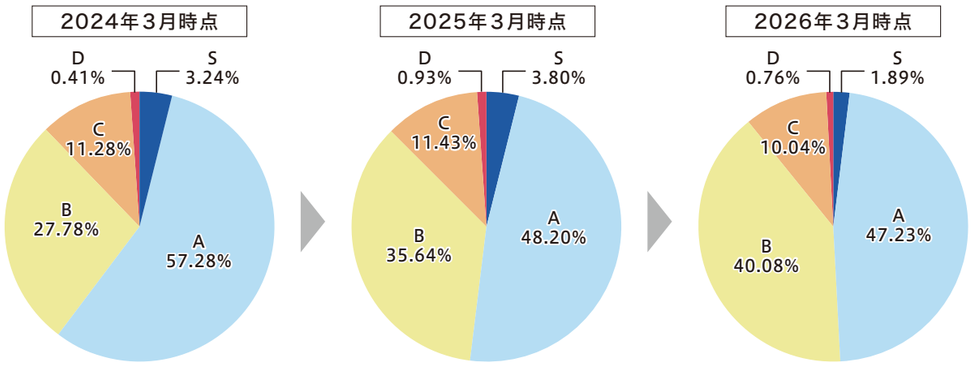
※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

経費削減の取組

2022年１月から導入した医療材料ベンチマークシステムを活用し、製造業者及び販売業者との面談による医療材料等の購入にかかる価格交渉を2025年度も継続して行っています。医療材料ベンチマークシステムとは、同システムを利用している全国の医療機関の医療材料等の品目ごとの購入価格・購入数量を参照し、本院の価格と比較・分析することができるシステム（現在全国1000施設が利用）のことです。2025年度の価格交渉の結果、医療材料・医薬品の購入費について年間約8,300万円の削減効果がありました。

また、2025年度からは地域医療連携推進法人浜松アカデミック・メディカル・アライアンス（HAMA）による共同調達・共同価格交渉により更なる経費削減に取り組んでおります。2025年度の経費削減効果は約2,390万円（連携推進法人全体では6,680万円）となりました。

医療材料の取引金額構成比率



S：最小単価で購入　A：平均より低い単価で購入　B：平均単価で購入　C：平均より高い単価で購入　D：最大単価で購入

地域の皆様と共に未来を創る浜松医大

教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、2016年７月「浜松医科大学基金」を設立しました。

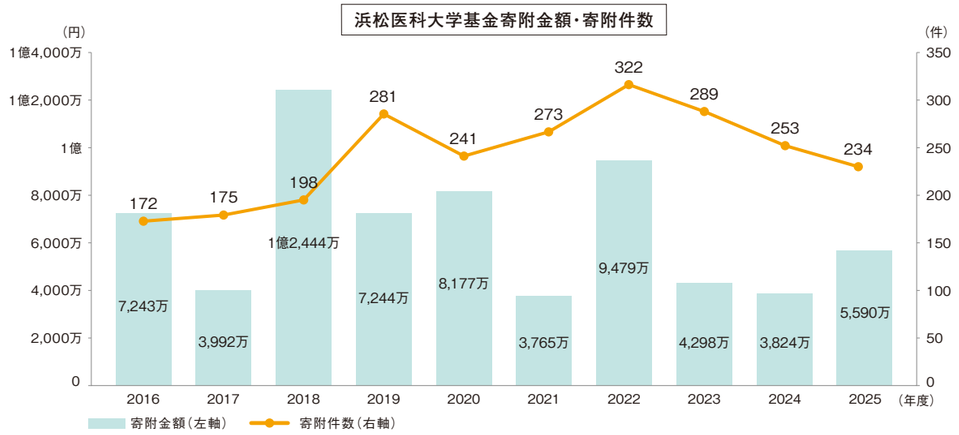
浜松医科大学基金によって、医学及び看護学の教育研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を提供することにより、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てたいと思っています。

浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。



浜松医科大学基金寄附額・寄附件数 （2026年３月末現在）

基金設立より、**個人2,154件、法人・団体284件**の皆様から
6億6,056万円のご寄附をいただきました。



浜松医科大学基金の種類

浜松医科大学基金 ※支援項目を特定せずにご寄附いただくこともできます。

- テーマ１ 教育研究活動への支援
- テーマ２ 教育研究の環境整備とプロジェクトへの支援、キャンパス環境の整備充実への支援
- テーマ３ 国際交流及びグローバル人材育成への支援
- テーマ４ 附属病院への支援

修学支援事業基金

経済的な理由により修学が困難な学生への支援、障害のある学生への支援

研究等支援事業基金

学生又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援

web 浜松医科大学基金については、ホームページをご覧ください。
https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html

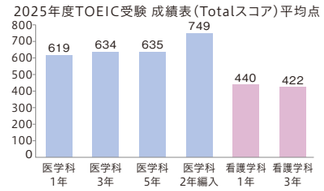
2025年度 浜松医科大学基金を活用した支援の実績

5,916万円

浜松医科大学基金の趣旨をご理解いただき、ご協力とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。お寄せいただきました寄附金につきましては、ご意向に沿い、教育・研究・診療・社会貢献等に関する事業を一層充実させるために、有効に活用させていただきます。

TOEIC受験について支援

【受験者】
医学科 363名
看護学科 131名
※受験は奇数学年のみ



在学中は、TOEIC受験をはじめ、英語教育を継続しています。国際性の観点だけでなく、異文化や人種等の多様性の理解に必須である英語の修学にも焦点を当てたカリキュラムを実施しています。

防災士養成について支援




災害医療の重要性と地域防災力の強化を目的として、将来、災害時に即応できる医療人材の育成及び地域社会における防災リーダーの養成を図るため、医学科１年生109名に支援を行いました。

社会貢献事業について支援

本学の職員が行っている地域医療や公衆衛生に貢献する社会的活動等及び地域教育に対する活動について、２部署へ支援を行いました。

・ブラック・ジャック セミナー




医師の仕事を中高生に体験させ、医療への関心を高め将来の進路選定を支援する活動

・はままつやさしい保健室 他



在日外国人の日々の暮らしへの医療面のサポートを目的とした、外国人も利用できる相談窓口の設置
医療通訳士向け医学教育本（2024年度出版）の普及と改良

学生の海外留学について支援

海外留学する学生への支援を行いました。

臨床実習：留学先▶中国、ポーランド、タイ、ドイツ
語学留学：留学先▶米国



海外留学報告会の様子

留学生との意見交換会について支援

2026年３月「国際交流のつどい」を開催しました。
（2026年３月現在、６か国、37名の留学生が在籍）




皆様へ

「統合報告書2026」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。

本学では2021年度から、これまで発行しておりました本学の取組と財務に関する年次報告書である「アニュアルレポート」を大きく見直し、本学の将来ビジョンに向けた取組と現在の進捗状況を、関係される全ての皆様へ分かりやすく説明することを大きな目的として統合報告書を作成しています。

作成に当たっては、部署横断的組織であるIR（Institutional Research）室が中心となり、昨年度いただいた皆様からのご意見・ご感想を参考に、将来ビジョンの5つの区分である教育、研究、医療、社会連携・地域連携、業務運営のこれまでの取組から掲載内容を選定し、あわせて、財務諸表等の財務情報を分かりやすい形に整理して構成しています。

この報告書を通して、皆様に本学のこれまでの取組と現在の状況、さらに将来への目標をお伝え出来たら幸いです。また本学に関係される多様な立場の皆様から、忌憚のないご意見をお待ちしています。

皆様との対話を通じて、本学の未来、新しい価値を創造してまいりたいと考えています。

学長をトップとしたガバナンス体制の下に、将来ビジョン達成に向けて、今後も教育・研究・医療の新たな取組、更なる業務効率化等の経営改革を職員一丸となって進めてまいります。

引き続き、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

理事（教育・評価担当）・副学長
IR室長　梅村和夫

アンケートへのご協力のお願い

統合報告書2026をお読みいただき、ありがとうございました。
本学は本報告書を通して、本学を支えてくださる皆様に大学の将来ビジョンや具体的な取組についてご理解を深めていただき、対話をしていくことで更なる改善を目指しております。
その一つとして、統合報告書2026をホームページに掲載して、Webアンケートを実施しておりますので、お気付きのことがありましたら、ご意見をいただけますと幸いです。

web　統合報告書ホームページ・Webアンケート
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/zaimu.html

［報告対象期間］
2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）を対象としています。ただし、必要に応じて当該期間の前後についても記載しています。また、財務情報の多くは、2025年度までの情報となっています。

浜松医科大学紹介の情報

情報公開と広報誌/刊行物のご案内

統合報告書2026は、本学の取組と財務情報から、本学の活動を関係される全ての皆様に分かりやすい内容となるように集約編集したものです。より詳細な内容につきましては、本学ホームページに掲載しています。

浜松医科大学ホームページ
https://www.hama-med.ac.jp/



中期目標・中期計画等
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/



国立大学法人評価に関する情報
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html



財務諸表等
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/financialinfo/financial.html



大学概要
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/gaiyou.html



大学概要

環境報告書
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mechanism-fig/safety-hygiene/er.html



環境報告書

大学広報誌『NEWSLETTER』
https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/newsletter/



大学広報誌
『NEWSLETTER』

附属病院広報誌『はんだ山の風』
https://www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/journal/handayamanokaze/



附属病院広報誌
『はんだ山の風』